委託事業実施内容報告書
平成28年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム（B）】

別紙イ

業務結果説明書

団体名：一般社団法人磐田国際交流協会

1．事業の概要

事業名称	**地域とつながる、地域に広げる日本語教育環境整備事業**
事業の目的	行政、地域交流センター、社会福祉協議会、自治会、保育園、市民団体、日本人住民等と連携・協力を図り、対話活動や行動・体験活動を通して、「生活者としての外国人」の多様なニーズに応える日本語学習の場を提供するとともに、「地域社会全体が日本語を学ぶ場」と考え、日本人住民の外国人及び日本語教育に対する理解を促進し、外国人と日本人の相互のコミュニケーション力を向上することにより、地域社会全体で日本語教育の環境を整えていく。
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	【地域に居住する外国人の実情】 磐田市の外国人の人口は、平成27年12月末現在6,176人で総人口の約3.6%を占め、微増の傾向にある。国籍別内訳は、約6割がブラジルで3,639人、続いてフィリピン978人、中国544人となっている。在留資格別では、永住者と定住者が約4分の3を占め、その他、技能実習生、日本人の配偶者、企業内転勤など多国籍で多様な外国人が居住している。近年は、日系フィリピン人とベトナム人技能実習生の増加が顕著である。 【日本語教育活動の現状】 年間を通して、市内4カ所で日本語教室を実施。各教室がそれぞれに行動・体験を中心とした活動に取り組み、教室の特徴を生かしながら地域との関係性を作りつつある。平成27年度には、外国人参加者が主体となって、市広報で一般参加者を募集し「外国料理交流会」を行う等、新たな取り組みにも挑戦した。その他にも、防災に取り組んでいる市民団体が主催した「防災ファミリー運動会」に協力する等、少しずつ連携の輪を広げてきている。「防災訓練への参加」では、外国人がより主体的に関われるように活動の内容を改善する等、自治会や地域防災会との連携が深まってきている。「子育て日本語教室」では、外国人参加者がインターナショナルフォーラムで「多言語よみきかせ」を一般来場者対象に行い、地域への発信を試みた。 【日本語教育活動を行う上での課題】 ①近年急増しているフィリピン人がほとんど日本語教室に参加していない。 ②今年度、ブラジル人の日本語教室への参加が増えたとはいえ、まだまだ多いとは言えないうえ、数回通って来なくなるケースが多いので、更なるブラジル人の参加と日本語教室への定着を促すために、生活に必要な日本語を優先してテーマに取り上げたり、対話を通した読み書き活動を取り入れるなど、外国人のニーズに合わせた活動の改善が必要。 ③今年度実施した「防災日本語講座」や「子育て日本語教室」の連携事業から、残念なことに、日本人住民が「特に理由があるわけではないけれど、なんとなく」外国人を怖いと感じたり、外国人を避けたりしてしまう実情がみえてきた。外国人が日本語を使って生活したり、地域社会に参画するためには、日本人と外国人が接する機会を増やす活動をして、相互理解を促進していかなければならない。
本事業の対象とする空白地域の状況	
事業内容の概要	1．学び合い、人とつながる日本語教室の実施【取組1】 市内4カ所で、「生活者としての外国人」の多様なニーズに合わせた日本語教室を実施する。外国人参加者のレベルに合わせたレベル別活動に加え、対話を中心とした活動と、行動・体験を中心とした活動を取り入れる。対話活動では、「標準的なカリキュラム案で扱う生活上の行為の事例」を参考に、外国人参加者が必要としている日本語を優先的にテーマに取り上げ、必要に応じて、対話を通した読み書き活動も行う。行動・体験中心の活動では、行政、地域交流センター、社会福祉協議会、市民団体、日本人住民等と連携・協力を図りながら、外国人にとって魅力のある学習内容になるように工夫するとともに、教室以外の日本人とコミュニケーションをとる機会をできるだけ多く作る。この活動を行う過程において、外国人参加者も一緒に企画や準備を行い、主体的に活動を作り上げていく。そうすることで、日本語教室での役割感、居場所感を育み、自分に自信を持ち、その延長線上において、地域社会でもその担い手として地域活動に参加でき、多様なつながりを持って、より自分らしく生き生きと生活できるようになることを目指す。また同時に、参加型の行動・体験中心の活動は外国人と日本人が互いに学び合う多文化交流の場となり、互いに異文化を理解し、対等な関係性を築きながら外国人と日本人が双方向的にコミュニケーション力を高めていく活動を目指す。 2．地域つながりづくり日本語講座の実施【取組2】 （1）自治会長と話そう 自治会連合会豊田支部の「多文化共生に向けた自治会長情報交換会」と合同で年2回開催する。1回目は、「多文化共生」をテーマに、講演会と自治会長との意見交換会を実施する。2回目は、「防災」をテーマに「やさしい日本語を使った避難所運営ゲーム」を自治会長と一緒に体験する。このことは、地域の人と日本語で会話をする実際の体験ができるだけでなく、外国人の「地域社会」や「防災」に対する意識啓発にもつながる。同時に、普段外国人に接する機会が少ない自治会長が、外国人と直接対話をすることで、外国人への理解が促進されたり、お互いにどう話したらいいのかを体験を通して相互学習することができる。 （2）地域防災訓練への参加 12月に行われる地域防災訓練に参加する。これまで避難訓練に参加した経験がない外国人は、過去2回受け入れてくれている富岡地区の避難所運営訓練に日本語支援者が引率して参加し、地域の日本人参加者に交じって、訓練を体験する。その他の自力で参加できる外国人は、自分が住んでいる地区の防災訓練に参加するように促す。実施に当たっては、事前に日本語教室で情報を収集したり、必要な日本語を学ぶなどの準備を整えるようにする。このことは、外国人の防災知識と日本語の習得につながるだけでなく、地域の自主防災の多様な住民を想定した備えの充実につながる。

	3. 保育園との連携による子育て日本語教室の実施【取組3】 子どもが小さいために日本語教室に通えない外国人が、子育てを通して日本語を身につけられるよう子育て日本語教室を実施する。外国人、日本人、両方の親子を対象に実施し、対話活動を取り入れて相互理解を図りながら、子どもとの関わり方や遊び方、防災や料理について共に学ぶ。これらの活動を通して、生活や子育てに関する日本語を習得できるように工夫する。更に、いわたインターナショナルフォーラムの場を活用して、学んだことを日本語や多言語で発信し、参加者のエンパワーメントと子育てネットワークの広がりにつなげる。実施に当たっては、市内で外国人が最も多い保育園及び親子を対象に活動している市民団体と連携して行う。 4. 学び合い、人とつながる日本語教室を支える人材養成・研修の実施【取組4】 学び合い、人とつながる日本語教室を支える人材を養成するために「日本語ボランティア養成講座」を実施する。既に活動している日本語支援者の研修も兼ねる。「地域の多文化共生」「地域日本語教室と日本語ボランティアの役割」「対話を中心とした日本語活動」、「行動・体験を中心とした日本語活動」、「子どもを対象とした対話活動」、「対話を通した読み書き活動」等について学ぶ。講座修了後に、スムーズに教室活動に参加できるよう、活動案を作成し授業を行う実践を取り入れる。 5. フォーラムにおける日本語教室の活動紹介と成果発表【取組5】 市民団体や企業、行政からなる実行委員会を組織して開催する「いわたインターナショナルフォーラム」において、日本語教室の活動を紹介したり、学習者による日本語スピーチ、子育て日本語教室の成果発表を行うなどして、地域住民に対する日本語教室の周知を図り、日本語教育への理解を促進する。
事業の実施期間	平成28年5月～平成29年3月 （11か月間）

2. 事業の実施体制

(1)運営委員会

【運営委員】

1	米勢　治子	東海日本語ネットワーク
2	高畑　幸	静岡県立大学国際関係学部
3	古橋　哉子	(公財)静岡県国際交流協会
4	高井　マリ	NPO法人フィリピノナガイサ
5	里見　恵理子	HODOS(カトリック教会外国人コミュニティー)
6	村上　勇夫	磐田市自治会連合会
7	三輪　邦子	NPO法人磐田まちづくりネットワーク
8	今井　修	磐田市市民活動推進課 協働・共生社会推進グループ
9	髙塚　勝久	(一社)磐田国際交流協会

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成28年7月4日 14:00～16:00	2時間	磐田市役所豊田支所2階　大会議室	(運営委員) 米勢治子，高畑幸，古橋哉子，里見恵理子，高井マリ，村上勇夫，今井修，髙塚勝久 (ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ) 重田秀夫，宇野薫，大場睦子，伊藤ゆかり，永山鮎子 (事務局) 鈴木亨司，鈴木ゆみ，川添裕子	1. 平成28年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業概要説明 2. 各教室の実施状況と課題及び今後の活動計画について協議 ・病院や防災等に学習者の関心があり，専門家を講師に招くのが効果的。 ・ブラジル人，フィリピン人の継続参加が難しい。 ・子育て教室はリーピーターが増えている。 3. 意見交換 ・日本語教室の活動が進展してきており、大勢の人との関わりができてきている。 ・外国の子どもの状況について，各機関が連携し，磐田市全体で考える必要がある。
2	平成28年10月24日 14:00～16:00	2時間	磐田市役所豊田支所2階　大会議室	(運営委員) 米勢治子，高畑幸，古橋哉子，里見恵理子，高井マリ，三輪邦子，村上勇夫，今井修，髙塚勝久 (ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ) 重田秀夫，宇野薫，大場睦子，伊藤ゆかり，足立進一郎(永山鮎子産休のため代理出席) (事務局) 鈴木亨司，鈴木ゆみ，川添裕子	1. 報告 ・自治会長と話そう「多文化共生」 ・日本語ボランティア養成講座経過報告 ・対話活動，連携事業等普及活動 2. 各教室の実施状況と課題及び今後の活動計画について協議 ・昨年の防災訓練参加がきっかけとなり，地域の夏まつり出店に誘ってもらえた。地域と繋がってきている。 ・学習者が友達を誘うケースが増えている。 ・ボランティアの増員が課題。 3. 意見交換 ・ブラジル人は教会や親せきなどコミュニティがあり，日本語ができなくても生活していける。日本語や日本文化を学ぶ必要性がない。信頼関係を構築することが大事。 ・フィリピン人は増えていない。以前の日本人の配偶者から，日系人へと変化しており，ブラジル人と状況が似てきている。フィリピンは国の政策で，海外での就労をすすめている。 ・地域の多文化共生のために，企業との連携が必要。 ・多文化共生の拠点があるとよい。

3	平成29年2月20日 13：30～15：30	2時間	磐田市役所豊田支所3階　302会議室	（運営委員） 米勢治子，高畑幸，古橋哉子，里見恵理子，高井マリ，村上勇夫，髙塚勝久 （ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ） 重田秀夫，宇野薫，大場睦子，伊藤ゆかり，永山鮎子 （事務局） 鈴木亨司，鈴木ゆみ，川添裕子	1．報告 ・地域つながりづくり日本語講座（HUG体験，防災訓練） ・日本語ボランティア養成講座経過報告 ・いわたインターナショナルフォーラム2017参加 ・対話活動・連携事業等普及活動 2．各教室の実施状況及び今年度の振り返りについて協議 ・複数の教室で，学習者だった外国人が補助者として活動に関わるようになった。 ・料理交流会など地域の日本人と交流できる企画は，モチベーションの向上に繋がっている。 ・ワークピア教室では，学習者が急増。新規学習者を対象に，急遽，生活情報を提供する日本生活スタートクラスを設置。今後，できるだけ専門機関と連携して実施したいと考えている。 ・豊田教室と西貝教室で支援してきた子どもたちが，正社員として就職したり，大学に進学する等，嬉しい報告が相次いだ。 3．意見交換 ・学習者を募集したり，活動を紹介し理解促進するために，企業へ働きかけることが大事。企業との連携を多文化共生につなげたい。 ・学習者が少ない教室もあるが，教室を開いていることが大事。 ・日本語を学ぶメリットや勉強をしたくなる仕掛けづくりを考えては。日本人と何か一緒にしたいと思わせるようなもの。 ・定時制高校との新たな繋がりがうまれ，保護者向けの教室を実施した。子育て教室で教育の入口支援、保護者教室で出口支援となるとよい。 4．総括 ・文化庁のアンケートにそって，今年度の事業を評価。 ・企業への働きかけが次年度の課題。企業から大人へ、大人から子どもへとうまく流れができるよい。

（2）地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	・市豊田支所市民生活課、自治会連合会豊田支部、市民活動推進課、静岡県西部危機管理局、磐田市危機管理課と連携・協力し、「多文化共生に向けた自治会長情報交換会」と合同で「自治会長と多文化共生について話そう」及び「やさしい日本語を使った避難所運営ゲーム」を開催する。更に、富岡地区自治会・自主防災会等と連携・協力し、「防災訓練への参加」を実施する。このことにより、外国人の「地域社会」や「防災」に対する意識向上と防災用語の習得、及び地域の多文化共生の理解促進、地域防災の多文化対応の充実、外国人住民と日本人住民相互のコミュニケーション力の向上が見込まれる。 ・社会福祉法人聖隷福祉事業団こうのとり東保育園と市民団体「子どもの健康と環境を考える会」及び「みんなでうさぎ山を楽しむ会」と連携・協力して「子育て日本語教室」を実施する。こうのとり東保育園は子どもとの関わり方と料理教室を担当し、「子どもの健康と環境を考える会」は「親子のための防災講座」を、「みんなでうさぎ山を楽しむ会」は「自然の中の外遊び体験」を担当する。実施に当たっては、磐田市幼稚園保育園課、子育て支援課、子育て支援センター、南御厨公民館、磐田市多文化交流センター、カトリック磐田教会の協力を得る。このことにより、生活や子育てに関する日本語を習得したり、子育てに必要な知識を得たり、多文化理解を促進し、子育てネットワークを広げたりできる。 ・社会福祉協議会主催の「ふれあい広場」に出店する。その他、西貝地区文化祭に実行委員として参加し、学習者によるステージ出演と模擬店出店をする。このことにより、地域住民と日本語で交流する体験ができたり、地域住民への日本語教室の周知と地域多文化共生への理解促進が見込まれる。 ・市役所市民課外国人情報窓口にて日本語教室の募集チラシ配布 ・市民団体や企業、行政からなる実行委員会を組織して開催する「いわたインターナショナルフォーラム」において、日本語教室の活動紹介と成果発表をする。日本語スピーチや教室活動の成果発表を通して、外国人のエンパワーメントを実現したり、地域住民の外国人住民に対する理解を深めたり、広く一般市民への日本語教室の周知が見込まれる。

（3）中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

本事業	1．学び合い、人とつながる日本語教室の実施【取組1】 鈴木ゆみ　コーディネーター（相談・助言・教室間調整） 川添裕子　事務作業担当、指導者 伊藤ゆかり　竜洋教室コーディネーター（教室運営・活動企画）、指導者 宇野薫　豊田教室コーディネーター（教室運営・活動企画）、指導者 大場睦子　西貝教室コーディネーター（教室運営・活動企画）、指導者 永山鮎子　ワークピア教室コーディネーター（教室運営・活動企画）、指導者 社会福祉協議会 「ふれあい広場」主催 西貝地区文化祭実行委員会及び西貝交流センター「西貝地区文化祭」主催 磐田市市民活動推進課　ワークピア教室の会場の確保 磐田市市民課外国人情報窓口　日本語教室参加者募集チラシ配布 各種市民団体・日本人住民　行動・体験活動の講師・参加者等 2．地域つながりづくり日本語講座の実施【取組2】 鈴木ゆみ　コーディネーター（企画・運営、対外折衝） 川添裕子　事務作業担当 伊藤ゆかり　竜洋教室からの講座参加者取りまとめ 宇野薫　　豊田教室からの講座参加者取りまとめ 大場睦子　西貝教室からの講座参加者取りまとめ 永山鮎子　ワークピア教室からの講座参加者取りまとめ NPO法人多文化共生マネージャー全国協議会副代表理事　高木和彦　第1回「（仮題）自治会長と多文化共生について話そう」講師 市豊田支所市民生活課　「多文化共生に向けた自治会長情報交換会」事務局 自治会連合会豊田支部　「多文化共生に向けた自治会長情報交換会」主催 市民活動推進課　市役所内各部署の連携・調整 静岡県西部危機管理局 「やさしい日本語を使った避難所運営ゲーム」指導 磐田市危機管理課 「やさしい日本語を使った避難所運営ゲーム」「防災訓練」協力 富岡地区自治会・自主防災会等 「防災訓練」主催

の 実 施 体 制	3. 保育園との連携による子育て日本語教室の実施【取組3】 鈴木ゆみ　コーディネーター（企画・運営、対外折衝） 川添裕子　事務作業担当、補助者 中尾和可奈　補助者 社会福祉法人聖隷福祉事業団こうのとり東保育園　会場提供、「子どもとの関わり方」及び「料理教室」講師 子どもの健康と環境を考える会 「親子のための防災講座」講師 みんなでうさぎ山を楽しむ会 「自然の中の外遊び体験」講師 磐田市多文化交流センター・カトリック磐田教会　活動補助者、募集協力 磐田市幼稚園保育園課・子育て支援課・子育て支援センター・南御厨交流センター　募集協力 NPO法人磐田まちづくりネットワーク　託児協力 4. 学び合い、人とつながる日本語教室を支える人材養成・研修の実施【取組4】 鈴木ゆみ　コーディネーター（企画・運営、対外折衝）、「活動の実践」、「子どもを対象とした対話活動」、 「ふりかえり・まとめ」講師、「磐田の子ども支援事業」進行 川添裕子　事務作業担当、「対話を中心とした日本語活動」 「対話を通した読み書き活動」、「行動・体験を中心とした教室活動」講師 静岡県立大学国際関係学部　准教授　高畑幸 「地域の多文化共生」講師 東海日本語ネットワーク　副代表　米勢治子 「地域日本語教室と日本語ボランティアの役割」講師 多文化交流センター・磐田市福祉課・磐田市教育委員会　発表者 5. フォーラムにおける日本語教室の活動紹介と成果発表【取組5】 鈴木ゆみ　子育て日本語教室成果発表担当、教室間調整 川添裕子　日本語スピーチ指導、事務作業担当 宇野薫　豊田教室教室紹介担当 大場睦子　西貝教室教室紹介担当、日本語スピーチ指導 伊藤ゆかり　竜洋教室教室紹介担当、日本語スピーチ指導 永山鮎子　ワークピア教室教室紹介担当、日本語スピーチ指導 前嶋義夫　いわたインターナショナルフォーラム実行委員、豊田教室日本語スピーチ指導 市民団体・企業・行政　いわたインターナショナルフォーラム実行委員

３．各取組の報告

＜取組1＞

取組1	取組の名称	学び合い、人とつながる日本語教室
	取組の目標	・生活に必要な日本語の習得 ・地域社会で生き生きと生活できるように、人間関係を築くための日本語コミュニケーション力を養成し、地域社会への参画につなげる ・行動・体験中心の活動を通して、地域の日本人住民が外国人と交流することで、異文化に対する理解を深め、多文化共生のまちづくりに貢献する
	取組の内容	「標準的なカリキュラム案で取り上げられている生活上の行為の事例」を参考に、日本で生活するために必要な日本語教育を実施する。 対話を中心とした活動や、行動・体験を中心とした活動を取り入れ、地域連携を通して外国人参加者をエンパワーメントし、地域社会への参画に役立つ日本語教育を実施する。 1．豊田教室　1回2時間×33回，「フェスタ加茂参加」3．5時間×1回，「とよだふれあい広場参加」6時間×1回 地域の夏祭りへの参加【加茂自治会との連携】 ふれあい広場への参加【社会福祉協議会との連携】 2．西貝教室　1回2時間×34回，「文化祭前日準備」2．5時間×1回，「文化祭参加」7時間×1回，「クリスマスパーティー劇上演の練習」3時間×1回 日本文化の紹介・体験　（ゆかた着付けと抹茶体験）【日本文化の専門家の協力・交流】 地区文化祭への参加【西貝交流センター、西貝地区文化祭実行委員会との連携】 （一社）磐田国際交流協会主催行事への参加 バーベキュー交流会，クリスマスパーティー【教室間交流、地域の日本人住民との交流】 病院出前講座【磐田市総合病院との連携】 3．竜洋教室　1回2時間×30回，「竜洋交流センター夏祭り参加」7．5時間×1回，「外国料理交流会」8．25時間×1回 地域夏まつりへの参加　【竜洋交流センターとの連携】 外国人参加者が講師になる外国料理教室　【地域の日本人住民との交流】 4．ワークピア教室　1回2時間×32回，「スポーツ交流会」2．75時間×1回，「外国料理交流会」・「ふれあい広場へ行こう」4時間×2回 スポーツ交流会【教室間交流】 外国人参加者が講師になる外国料理教室　【地域の日本人住民との交流】 ※参加者の希望を聞きながら、随時、他団体、他機関、地域住民などと連携をとった活動を実施する。 ※日本人・外国人参加者が一緒に企画や準備を行う。
	□ 空白地域を含む場合、空白地域での活動	なし
	取組による体制整備	行動・体験中心の活動を取り入れることにより、行政、地域交流センター、社会福祉協議会、市民団体、地域の日本人住民と連携・協力を図る。
	取組による日本語能力の向上	・対話を中心とした活動による生活に必要な日本語の習得 ・地域の日本人との交流による日本語コミュニケーション力の向上
	参加対象者	生活者としての外国人 日本人協力者（行政、地域交流センター、社会福祉協議会、市民団体、地域の日本人住民） 参加者数（内 外国人数）：471人（434人）
	広報及び募集方法	・磐田市外国人情報窓口にて、転入者及び相談者に、磐田市日本語教室一覧、日本語教室マップ、希望の教室のチラシを配布 ・ポルトガル語版「広報いわた」に募集記事を掲載 ・協会会報誌、ホームページに日本語教室チラシを掲載
	開催時間数	総時間306．5時間 （空白地域0時間）
	主な連携・協働先	市民活動推進課、磐田市自治会連合会、社会福祉協議会、西貝交流センター、西貝地区文化祭実行委員会、竜洋交流センター、日本文化の専門家、地域の日本人住民、磐田市総合病院
	開催場所	豊田教室：磐田市役所豊田支所　磐田市森岡150 西貝教室：磐田市西貝交流センター　磐田市西貝塚1377-5 竜洋教室：磐田市竜洋交流センター　磐田市岡783-1 ワークピア教室：ワークピア磐田　磐田市見付2989-3

参加者の出身・国別内訳（人数）	中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル
	39	89	0	1	74	49	13	130
	ペルー（12人），アメリカ（9人），スリランカ（5人），日本（37人），台湾（3人），カザフスタン（2人），カナダ（1人），バングラディシュ（1人），フランス（1人），マレーシア（1人），パキスタン（1人），インド（1人），オーストラリア（1人），オランダ（1人）							

実施内容 【豊田教室】								
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者人数	補助者人数
1	平成28年5月19日 （木） 19:00～21:00	2	磐田市役所 豊田支所	13	買い物	利用するお店について話す。 商品や買い物の頻度の言い方を覚える。商品や店舗の情報交換、ポイントカードなどのお得な情報を得て利用できるようになる。	7人	8人
2	平成28年5月26日 （木） 19:00～21:00	2	磐田市役所 豊田支所	13	出身地の紹介	人とのコミュニケーションに活かせるよう、自分の出身国・出身地について紹介するときのポイントを知る。	5人	8人
3	平成28年6月9日 （木） 19:00～21:00	2	磐田市役所 豊田支所	16	出身地の紹介	【対話】人とのコミュニケーションに活かせるよう、自分の出身国・出身地について紹介するときのポイントを知る。 【読み書き：出身地のPR文を書こう！】出身地について日本語でまとまった文章を書くことで、自分の日本語を見直す。	5人	10人
4	平成28年6月16日 （木） 19:00～21:00	2	磐田市役所 豊田支所	11	郵便	【対話】郵便物の種類・料金、速達・書留の特別な存在を知る。また、不在通知の存在、それを受け取った場合の郵便の受け取り方法について知る。また、その際の、電話での再配達依頼を学ぶ。 【読み書き】郵便に必須な、住所・名前などの記述を学ぶ。また、決められた書式の中での記入を、練習する。	7人	10人
5	平成28年6月23日 （木） 19:00～21:00	2	磐田市役所 豊田支所	15	富士山	【対話】余暇の充実に役立ててもらえるよう、富士山と富士山周辺のおすすめの場所（富士山が良く見えるところ、遊べるところ）を知る。 【読み書き】富士山周辺のおすすめの場所について書く。	6人	7人
6	平成28年6月30日 （木） 19:00～21:00	2	磐田市役所 豊田支所	16	行きたい場所	行きたい場所について「どこ」、「なぜ」、「何を」を説明する。他の参加者の話から新しい場所を知る。	7人	8人
7	平成28年7月7日 （木） 19:00～21:00	2	磐田市役所 豊田支所	18	おすすめの料理	自分のおすすめの料理を紹介する。 材料、作り方なども話す。 「お米を研ぐ」「ふやかす」「溶かす」「粗熱」など、料理に使う言葉を覚える。 他国の料理を知る。	6人	8人
8	平成28年7月14日 （木） 19:00～21:00	2	磐田市役所 豊田支所	17	自己紹介	自分について、簡潔にまとめて人に伝える。	6人	9人
9	平成28年8月4日 （木） 19:00～21:00	2	磐田市役所 豊田支所	11	とよだふれあい広場の計画	昨年度のふれあい広場の様子や、良かった点、改善点を共有し、それを踏まえて今年の計画をたてる。	5人	8人
10	平成28年8月7日 （日） 15:00～18:30	3.5	豊田北部小 運動場	5	フェスタ加茂 出店	地域の夏祭りに、外国人家族手作り料理を出店し、地域の方々と言葉を交わす事によって、地域の方々に外国人家族に親しみを持ってもらう。更に“地域の一員”との認識を外国人と日本人両方に持ってもらう。	1人	5人
11	平成28年8月18日 （木） 19:00～21:00	2	磐田市役所 豊田支所	8	とよだふれあい広場の計画	ふれあい広場で使用する掲示物（メニュー表、パネル）のサイズや内容、担当を検討する。	4人	8人

12	平成28年8月25日 （木） 19:00～21:00	2	磐田市役所 豊田支所	12	①遊び・ゲーム ②ふれあい広場の計画	①子供のころによくした遊びやゲームについて、様々な手段で相手に伝える。 ②テーマ①の内容を参考にしながら、ゲームのアイディアを出し合う。また、料理のメニューを決める。	7人	8人
13	平成28年9月1日 （木） 19:00～21:00	2	磐田市役所 豊田支所	23	ふれあい広場で販売する料理	ふれあい広場で販売する料理を決め、数や値段、パッケージを検討する。料理の材料、手順などを相手に伝える。	5人	8人
14	平成28年9月8日 （木） 19:00～21:00	2	磐田市役所 豊田支所	17	とよだふれあい広場準備	料理販売の際に使用する掲示パネルを作成し、国や料理の紹介をする。	6人	8人
15	平成28年9月15日 （木） 19:00～21:00	2	磐田市役所 豊田支所	22	とよだふれあい広場準備	掲示パネルの作成、料理の作り方の確認、ゲームの準備、音楽の確認を終える。協働作業を通して参加者同士がお互いのことやお互いの国のことを知る。	6人	10人
16	平成28年9月25日 （日） 8:30～14:30	6	豊田福祉センター	13	とよだふれあい広場参加・出店	自分たちの作った自国の料理を“ふれあい広場”で自分たちで販売することを通して、来場者に料理の説明やアピールをして教室外の日本人とたくさん話す。日本語教室のことや自分たちのことを来場者に知ってもらう。 ゲームを通して参加者に簡単な言葉を自国語で紹介し親近感をもってもらう。	2人	10人
17	平成28年9月29日 （木） 19:00～21:00	2	磐田市役所 豊田支所	20	病気と病院	日本語初心者は体の部位や「…が痛い」など病気の症状を人に知らせる言い方を知る。日本での生活が長い人は病院の評判などの生活情報を交換する。	6人	9人
18	平成28年10月6日 （木） 19:00～21:00	2	磐田市役所 豊田支所	16	食べ物	「食べ方が分からないもの」について情報交換をする。消費期限、賞味期限の違いを知る。	5人	9人
19	平成28年10月13日 （木） 19:00～21:00	2	磐田市役所 豊田支所	16	わたしの好きな〇〇料理	食材の名前や調理方法の言い方を知り、自分の好きな料理がどんなものか相手に伝える。	6人	9人
20	平成28年10月20日 （木） 19:00～21:00	2	磐田市役所 豊田支所	12	災害・防災	日本の災害や防災、避難所について知り、次回の避難所運営訓練につなげる。また、自分の国の災害について話すことで災害関連の語彙を得る。	7人	7人
21	平成28年11月10日 （木） 19:00～21:00	2	磐田市役所 豊田支所	14	避難所	「自治会長と話そう」避難所運営ゲームHUG体験をふりかえる。避難所でどんなことが起きるか、どんなことができるか話す。自分の避難所を確認する。自治体広報の内容を理解する。	6人	11人
22	平成28年11月17日 （木） 19:00～21:00	2	磐田市役所 豊田支所	9	余暇を楽しむ	余暇時間の過ごし方を話す。好きなことや楽しんでいることを他の人に説明する。	6人	8人
23	平成28年11月24日 （木） 19:00～21:00	2	磐田市役所 豊田支所	12	わたしの一日	一日の過ごし方を話し、互いの生活習慣を知る。 時間の言い方に慣れる。	6人	7人
24	平成28年12月1日 （木） 19:00～21:00	2	磐田市役所 豊田支所	14	自己紹介	自分の出身地、好きなものについて話す。	5人	5人

25	平成28年12月8日 （木） 19:00～21:00	2	磐田市役所 豊田支所	20	忘年パーティーの準備	自分たちで何をするか考えることで、自己表現の場を得、自分の役割を持つことで、居場所感につなげる。	6人	7人
26	平成28年12月15日 （木） 19:00～21:00	2	磐田市役所 豊田支所	21	忘年パーティー	1）開会 2）初めの挨拶 3）自己紹介じゃんけんゲーム 4）みんなで乾杯後歓談タイム 5）子ども　手作り紙芝居＆リコーダー演奏 6）歌披露 7）終わりの挨拶 8）連絡事項 9）片づけ	1人	14人
27	平成29年1月12日 （木） 19:00～21:00	2	磐田市役所 豊田支所	8	年末年始は何をしましたか	日本や学習者の出身国の年末年始の過ごし方についてお互いに知る。自分の生活や身の回りのできごとについて人に伝える。	3人	9人
28	平成29年1月19日 （木） 19:00～21:00	2	磐田市役所 豊田支所	16	今年やりたいこと	新たな気持ちで前向きに一年を過ごすことができるような話題で話す。	7人	7人
29	平成29年1月26日 （木） 19:00～21:00	2	磐田市役所 豊田支所	13	自己紹介	自分の出身地、家族、趣味（好きなもの）について話し、お互いのことを知り合う。	7人	9人
30	平成29年2月2日 （木） 19:00～21:00	2	磐田市役所 豊田支所	9	困ったこと	自分が困ったことや、なぜ困ったかについて人にわかるように説明する。	4人	9人
31	平成29年2月9日 （木） 19:00～21:00	2	磐田市役所 豊田支所	13	行事	自国の行事について話す。他国の行事について聞き、自国との共通点、相違点を知る。日本の行事への参加につなげる。	6人	8人
32	平成29年2月16日 （木） 19:00～21:00	2	磐田市役所 豊田支所	15	好きな料理	身近な話題で楽しく話す。料理に関する語彙を得る。	6人	5人
33	平成29年3月2日 （木） 19:00～21:00	2	磐田市役所 豊田支所	15	健康	体の不調を訴え、相手に伝える。また、健康維持、体調改善の知識をつける。	6人	8人
34	平成29年3月9日 （木） 19:00～21:00	2	磐田市役所 豊田支所	9	標識	安全に暮らすため、日本の標識の意味を知る。自分の知っている標識について話す。	5人	7人
35	平成29年3月16日 （木） 19:00～21:00	2	磐田市役所 豊田支所	14	薬や品物の使い方を知る	薬を正しく使えるように、商品の説明を理解する。	6人	9人

実施内容 【西貝教室】

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者人数	補助者人数
1	平成28年5月15日 （日） 14:00～16:00	2	西貝交流センター	28	病気やけが	多言語診療申込書のかきかた。近所の人にたずねることば。医療機関で使うことば（医者に症状を伝える、会計をする）	5人	3人
2	平成28年5月22日 （日） 14:00～16:00	2	西貝交流センター	20	病気やけが	薬の種類、飲み方、使い方を理解する。薬局で薬を買う時のことば。	5人	3人

3	平成28年5月29日 （日） 14:00～16:00	2	西貝交流センター	27	熊本地震からみる災害への備えと対策	1）磐田市女性防災クラブ代表　木村淑恵さん「災害への備えと対策」講演 2）防災グッズの説明 3）質問、感想、交流	5人	6人
4	平成28年6月5日 （日） 14:00～16:00	2	西貝交流センター	21	電話の対応	電話のマナー、話し方について話す。	4人	5人
5	平成28年6月12日 （日） 14:00～16:00	2	西貝交流センター	24	電話の対応	電話のいろいろ（携帯、固定、公衆電話）。留守番電話の残し方。	5人	5人
6	平成28年6月19日 （日） 14:00～16:00	2	西貝交流センター	24	電話の対応	携帯に電話する（先輩・友達）。固定電話でご主人を呼び出してもらう。丁寧な言葉でうける。子供の学校の先生からの電話にでる。	5人	6人
7	平成28年6月26日 （日） 14:00～16:00	2	西貝交流センター	29	浴衣会	浴衣の着付けを習い自分でやってみる。お抹茶を自分でたてて、飲むことを体験する。記念撮影。感想文記入。	5人	7人
8	平成28年7月3日 （日） 14:00～16:00	2	西貝交流センター	20	バーベキュー交流会準備	バーベキュー交流会の内容を詳しく検討する。予算配分、各パートにわかれての内容の検討。	4人	7人
9	平成28年7月10日 （日） 14:00～16:00	2	西貝交流センター	18	電話の対応	会社を休む時のかけ方	5人	5人
10	平成28年7月17日 （日） 14:00～16:00	2	西貝交流センター	21	求職	求人広告「ニュースタッフ募集」を読んで内容を理解する。	4人	6人
11	平成28年7月24日 （日） 14:00～16:00	2	西貝交流センター	20	バーベキュー交流会準備	注意事項の確認 最終打ち合わせ（焼き係，食べ物準備係，会場運営係）	5人	7人
12	平成28年8月28日 （日） 14:00～16:00	2	西貝交流センター	16	電話の対応	全体をとおして復習と、敬語について理解する	5人	4人
13	平成28年9月4日 （日） 14:00～16:00	2	西貝交流センター	13	料理	1）どんな料理がつくれるか、いつもどんな料理を食べているかなどを話し合う。 2）料理の言葉を学習する（材料、調理器具、作り方、調味料、切り方など）。 3）マックスバリュ無料配布レシピを読んでみる。	5人	3人
14	平成28年9月11日 （日） 14:00～16:00	2	西貝交流センター	20	料理	1）自己紹介に好きな料理をいれて話す。 2）料理の言葉の復習 3）料理で使う表現の学習（～く切ります。ひと口大に切ります。柔らかくなるまで煮ます。食べやすい、にくい。ゆでている間に～をきります。）	4人	4人
15	平成28年9月25日 （日） 14:00～16:00	2	西貝交流センター	18	文化祭　準備	1）日本のうたについてのお話を聴く。 2）文化祭に向けて、歌唱指導をうける。	5人	3人
16	平成28年10月2日 （日） 14:00～16:00	2	西貝交流センター	19	料理	レシピが読めるようになる。よくしっている料理の作り方を説明する。	4人	5人
17	平成28年10月9日 （日） 14:00～16:00	2	西貝交流センター	14	料理	レシピを考える。	3人	6人

18	平成28年10月16日 （日） 14:00～16:00	2	西貝交流センター	24	料理	レシピの下書きを作る。	5人	2人
19	平成28年10月23日 （日） 14:00～16:00	2	西貝交流センター	21	文化祭　準備	劇「青い鳥」のセリフの練習	5人	3人
20	平成28年10月30日 （日） 14:00～16:00	2	西貝交流センター	19	文化祭　準備	1）文化祭プログラムの説明。当日のスケジュール表の確認。模擬店の確認 2）歌の練習 3）劇「青い鳥」の練習	4人	4人
21	平成28年11月5日 （土） 14:30～17:00	2.5	西貝交流センター	15	文化祭　準備	1）文化祭の模擬店必要物品の確認と設置。 2）体育館の舞台で、劇「青い鳥」の練習。	4人	4人
22	平成28年11月6日 （日） 8:00～15:00	7	西貝交流センター	26	文化祭参加	1）模擬店で販売（烙餅、ジャンボ餃子、雨のあげもの） 2）舞台発表「青い鳥」	1人	10人
23	平成28年11月13日 （日） 14:00～16:00	2	西貝交流センター	9	料理	自分で作ったレシピの修正と、作り方の説明。	4人	4人
24	平成28年11月20日 （日） 14:00～16:00	2	西貝交流センター	22	料理	自分で作ったレシピを使って発表する。	4人	4人
25	平成28年11月27日 （日） 14:00～16:00	2	西貝交流センター	17	子どもの頃の遊び	自分の住んでいた近くの様子と、どんなもので遊んでいたか話し合う。	4人	2人
26	平成28年12月4日 （日） 14:00～16:00	2	西貝交流センター	12	日本の都道府県	行った事がある場所、行きたい場所について話す。	4人	2人
27	平成28年12月11日 （日） 14:00～17:00	3	西貝交流センター	25	①日本の都道府県観光地 ②クリスマスパーティー劇練習	①今までにいったことがあるところを話し、質問したり、質問に答えたりする。 ②クリスマスパーティーで上演する「青い鳥」の劇の練習	4人	5人
28	平成28年12月18日 （日） 14:00～16:00	2	西貝交流センター	7	焼き芋	日本の食文化を通して自国の食文化の情報を提供しあう。	4人	3人
29	平成28年12月25日 （日） 14:00～16:00	2	西貝交流センター	20	忘年会	日本の年末行事の忘年会を理解し、一品料理をとおして交流を深める。	4人	5人
30	平成29年1月8日 （日） 14:00～16:00	2	西貝交流センター	13	占い	各国の面白い占いについて話し合い、他国のことについて興味をもってもらう。	3人	4人
31	平成29年1月15日 （日） 14:00～16:00	2	西貝交流センター	18	病院出前講座	①保険診療のしくみ②医療費ってどのくらいかかるの？③高額療養費制度の利用（手続き）について④医療費の相談窓口について⑤質疑応答	8人	3人
32	平成29年1月22日 （日） 14:00～16:00	2	西貝交流センター	12	携帯電話	携帯電話をどのように使っているか、携帯の便利な点、問題点などをお互いに話す。	5人	5人
33	平成29年2月12日 （日） 14:00～16:00	2	西貝交流センター	13	おすすめのお店	おすすめのお店を紹介しあい、地域の情報を共有する。	4人	4人

34	平成29年2月19日 （日） 14:00～16:00	2	西貝交流センター	17	擬声語・擬態語	イラストや実物を使って、「擬声語・擬態語」について話し、使うことができるようになる。	4人	3人
35	平成29年2月26日 （日） 14:00～16:00	2	西貝交流センター	13	動物は好きですか？	自分の興味のある生き物の話をする。以前飼っていた生き物、飼いたい生き物。	5人	3人
36	平成29年3月5日 （日） 14:00～16:00	2	西貝交流センター	16	なにかいいこと、あった?	最近の自分を振り返り、自分なりのいいことについて話す。	5人	5人
37	平成29年3月12日 （日） 14:00～16:00	2	西貝交流センター	19	今年度の振り返り	帰国する学習者のあいさつの作文と発表。今年度の教室を写真でふりかえる。	5人	2人

実施内容 【竜洋教室】

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者人数	補助者人数
1	平成28年5月15日 （日） 14:00～16:00	2	竜洋交流センター	2	買い物	利用するお店について話す。 商品や買い物に行く頻度の言い方を知る。商品や店舗についての情報交換、ポイントカードや割引などお得な情報を得る。	2人	3人
2	平成28年5月22日 （日） 14:00～16:00	2	竜洋交流センター	9	気になる標識、注意書き、看板	日常生活でよく目にするが、意味など理解できていないものをグループで話して分かるものを増やす。	2人	2人
3	平成28年6月5日 （日） 14:00～16:00	2	竜洋交流センター	4	おすすめの料理	自分のおすすめの料理を紹介する。材料、作り方なども話す。「千切り」「お米を研ぐ」「しんなり」など、料理に使う言葉を覚える。他国の料理を知る。	1人	5人
4	平成28年6月12日 （日） 14:00～16:00	2	竜洋交流センター	3	竜洋交流センターの夏祭りに参加しよう	夏祭り開催の目的を理解し、教室として参加するにあたり、自分たちのできることについて話し合う。	2人	4人
5	平成28年6月19日 （日） 14:00～16:00	2	竜洋交流センター	1	やりたい事	気楽な内容での対話の中で、できるだけ、5W1Hを含んだ、長い文を発する。	1人	4人
6	平成28年6月26日 （日） 14:00～16:00	2	竜洋交流センター	3	竜洋交流センターの夏祭りに参加しよう	料理にかわる、日本語教室らしい企画をみんなで話し合う。	2人	3人
7	平成28年7月3日 （日） 14:00～16:00	2	竜洋交流センター	1	自己紹介	年齢、家族、好きな物などについて話し、自分のことを相手に伝える。また、相手が伝えたいことを理解する。	1人	3人
8	平成28年7月10日 （日） 14:00～16:00	2	竜洋交流センター	2	好きなこと	自分の好きなことについて話すことにより、お互いの理解を深める。情報を得る。 好きなことについて人に話す時の言い方を覚える。(ヒデキくん)	1人	5人
9	平成28年7月24日 （日） 14:00～16:00	2	竜洋交流センター	1	交流センター夏祭り	射的関連の製作	2人	2人
10	平成28年8月7日 （日） 14:00～16:00	2	竜洋交流センター	3	①自己紹介 ②夏祭り準備	①自己紹介 自分のことを話し、お互いの理解を深める。自分のことについて人に話す時の言い方を覚える。 ②夏祭り準備 「日本語教室の紹介パネル」「射的」について考え、準備をする。	1人	4人
11	平成28年8月21日 （日） 14:00～16:00	2	竜洋交流センター	1	①「質問に答えよう」 ②「夏祭り準備」	①皆に聞いてみたいことを質問する。質問に答える。 ②「日本語教室・国の紹介パネル」「射的」について考え、準備をする。	1人	6人

12	平成28年8月28日 （日） ８:００～１５:３０	7.5	竜洋交流センター	9	竜洋交流センターの夏まつりに参加しよう	自分の役割をみつけて射的、コーヒー販売を手伝う。 来場者と交流する。	1人	9人
13	平成28年9月4日 （日） １４:００～１６:００	2	竜洋交流センター	3	①竜洋交流センターの夏まつりに参加しよう～ふりかえり ②磐田を知ろう	①竜洋交流センターの夏まつりについて皆の前で感想を話す。皆の感想を聞いて、共感したり、自分との違いを知ったりする。 ②自分の磐田のおすすめを話す。情報を得る。	1人	3人
14	平成28年9月11日 （日） １４:００～１６:００	2	竜洋交流センター	0	料理交流会の計画	実施日、内容、参加者の募集について話し合う。	2人	なし
15	平成28年9月25日 （日） １４:００～１６:００	2	竜洋交流センター	1	富士登山の感想を話そう	富士登山の様子、感想を話す。質問に答える。	1人	1人
16	平成28年10月2日 （日） １４:００～１６:００	2	竜洋交流センター	2	やりたいこと	やりたいこと、その理由について話す。	2人	1人
17	平成28年10月16日 （日） １４:００～１６:００	2	竜洋交流センター	3	わたしの出身地	自分の出身地がどんなところか、何が有名かなど、お互いに話してコミュニケーションを深める。自分の出身地と似ているところ、違うところなど理解しあう。	2人	2人
18	平成28年10月23日 （日） １４:００～１６:００	2	竜洋交流センター	4	自己紹介	自分のことを話し、お互いの理解を深める。自分のことについて人に話す時の言い方を覚える。	1人	3人
19	平成28年10月30日 （日） １４:００～１６:００	2	竜洋交流センター	1	学校の言葉	小学校、中学校で使われる用語、行事について知る。学校の行事に参加した時の様子を話す。	1人	2人
20	平成28年11月6日 （日） １４:００～１６:００	2	竜洋交流センター	0	料理交流会の準備	料理交流会、教室チラシについて話し合う	1人	3人
21	平成28年11月20日 （日） １４:００～１６:００	2	竜洋交流センター	6	おすすめの場所	おすすめの場所について説明する。他の参加者がすすめる場所の情報を得る。	2人	1人
22	平成28年11月27日 （日） １４:００～１６:００	2	竜洋交流センター	6	旅行の計画を立てよう	行きたい所を話す。その場所について、交通手段について(乗り物・時間・料金など)、お得な方法、おすすめの場所などの情報を得る。	1人	3人
23	平成28年12月4日 （日） １４:００～１６:００	2	竜洋交流センター	3	わたしの冬休み	自分の冬休み（年末年始）の過ごし方について、お互いに話しす。「いつからいつまで休み」「誰と一緒に」「どうやって」「どこへ行く」「何をしたい」など、楽しく話して理解しあう。	2人	2人
24	平成28年12月11日 （日） １４:００～１６:００	2	竜洋交流センター	5	買い物	普段買い物する店について話す。関連した言葉（頻度や金額の言い方など）を得る。	2人	1人
25	平成28年12月18日 （日） １４:００～１６:００	2	竜洋交流センター	6	料理交流会のメニューを決めよう	料理交流会の流れを理解する。自分の役割を考える。話し合いで料理のメニューと材料を考える。	1人	2人
26	平成29年1月15日 （日） １４:００～１６:００	2	竜洋交流センター	4	料理交流会の準備をしよう	前回途中になったベトナム料理の材料と作り方を考える。フィリピン料理のメニューを考える。自国の料理について補助者の質問に答えながら説明する。	1人	2人
27	平成29年1月22日 （日） １４:００～１６:００	2	竜洋交流センター	1	レシピ作り	料理交流会のレシピ作りをする。	1人	1人
28	平成29年2月12日 （日） １４:００～１６:００	2	竜洋交流センター	7	料理交流会の料理の確認をしよう	ベトナム料理、フィリピン料理の材料と作り方と予算を確認する。	1人	4人
29	平成29年2月19日 （日） １４:００～１６:００	2	竜洋交流センター	4	料理交流会の料理の確認	ベトナム料理、フィリピン料理の材料と作り方を確認する。買い出し、当日の流れ、料理のグループ分けを考える。	1人	1人

30	平成29年2月26日 （日） ９:００～１７:１５	8.25	竜洋交流センター	12	①料理交流会の食材の買い出しと準備 ②料理交流会	①買いたい食材を買う。自分の役割を理解し、互いに協力して行動する。 ②料理作りの指示をする。指示に従って料理作りができる。参加者同士交流する。	1人	3人
31	平成29年3月5日 （日） １４:００～１６:００	2	竜洋交流センター	2	①料理交流会のふりかえり ②いちご狩りのふりかえり	自分の感じたこと等を皆の前で話す。	1人	2人
32	平成29年3月12日 （日） １４:００～１６:００	2	竜洋交流センター	4	自己紹介	自分のことを話し、お互いの理解を深める。自分のことについて人に話す時の言い方を覚える。	1人	3人

実施内容 【ワークピア教室】

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者人数	補助者人数
1	平成28年5月15日 （日） １４:００～１６:００	2	ワークピア磐田	13	GWに何をしましたか	GWにしたことを聞いたり話したりして情報交換をする。興味あることについて質問し、アドバイスを得る。	7人	4人
2	平成28年5月22日 （日） １４:００～１６:００	2	ワークピア磐田	8	好きなスポーツ	好きなスポーツについて話したり、現在しているスポーツを紹介する。	4人	6人
3	平成28年5月29日 （日） １４:００～１６:００	2	ワークピア磐田	9	わたしの家（アパート、寮）	自分の住んでいるところについて話す。他の人の家についての説明を聞いて理解する。	6人	4人
4	平成28年6月19日 （日） １４:００～１６:００	2	ワークピア磐田	11	家族	父の日にちなみ、家族について聞いたり話したりして互いを知る。父、お父さん、親父など、いろいろな言い方があることも紹介する。	6人	7人
5	平成28年6月26日 （日） １４:００～１６:００	2	ワークピア磐田	15	あなたの国のおすすめ料理	自分の国のおいしい料理について味、材料、作り方等について話す。人に自分の好きなものを薦める。	7人	8人
6	平成28年7月3日 （日） １４:００～１６:００	2	ワークピア磐田	7	わたしの国の行事と文化	自分の国の行事や文化を紹介し合う。	5人	5人
7	平成28年7月10日 （日） １４:００～１６:００	2	ワークピア磐田	9	夏休みの過ごし方	「夏休み」の期間や予定について話す。他の人の予定を聞き、情報交換する。「お盆・墓参り」を紹介し日本独自の文化を理解してもらう。	5人	8人
8	平成28年7月17日 （日） １３:３０～１６:１５	2.75	ワークピア磐田	14	スポーツ交流会	１）開会・挨拶 ２）ラジオ体操 ３）バレーボールパス ４）スプーン競走 ５）タグ取り鬼ごっこ ６）ボール運び ７）玉入れ ８）表彰式・記念撮影 ９）片付け・清掃	6人	11人
9	平成28年7月24日 （日） １４:００～１６:００	2	ワークピア磐田	10	ごみの分け方	磐田市のごみの分別と出し方を、「ごみ対策課」発行パンフで確認しながら理解する。自国のごみ事情を、聞いたり話したりして情報を交換した後、ごみ削減について考える。	5人	8人
10	平成28年8月7日 （日） １４:００～１６:００	2	ワークピア磐田	9	買い物で困ったこと	困った事例を出し合い、欲しいものを買い物できるための言葉と手段を身に付ける。	5人	3人

11	平成28年8月28日 （日） 14:00～16:00	2	ワークピア磐田	19	指定避難所・救護所の場所	磐田市内の行ったことがある所、行ってみたい所を話し合いながら、災害に備えて指定避難所・救護所の場所を覚えてもらう。	6人	5人
12	平成28年9月4日 （日） 14:00～16:00	2	ワークピア磐田	21	あなたのおすすめ料理のレシピ	自分の国のおいしい料理について作り方をみんなに紹介する。料理に関するさまざまな言葉を使ってみる。	6人	6人
13	平成28年9月11日 （日） 14:00～16:00	2	ワークピア磐田	20	夏の思い出	夏の思い出について、絵や写真など視覚資料を使い自分の経験を紹介する。	6人	6人
14	平成28年9月18日 （日） 14:00～16:00	2	ワークピア磐田	10	まつり	母国の祭りの様子や思い出を聞いたり話したりする。教室周辺の祭りを紹介し、余暇を楽しむきっかけをつくる。	5人	3人
15	平成28年9月25日 （日） 14:00～16:00	2	ワークピア磐田	20	他己紹介	学習者同士でみんなにお互いのことを紹介し合い、人から聞いたことを伝える時の言い方を学ぶ。	6人	4人
16	平成28年10月9日 （日） 14:00～16:00	2	ワークピア磐田	22	物の数え方	仕事や日本での生活に役立てられるよう、日本特有の物の数え方を学ぶ。	6人	3人
17	平成28年10月16日 （日） 12:30～16:30	4	ワークピア磐田	34	外国料理交流会	12:30 文化振興センター集合 荷物搬入 、打ち合わせ 13:00 受け付け開始 13:25 挨拶，リーダー紹介 自国の言葉で「こんにちは」を教えてもらい、全員で復唱 メニュー紹介 注意事項を伝える（トイレの場所、使った物は元の場所に戻す、ゴミ袋への入れ方、今日のスケジュール） グループ内で自己紹介 料理開始 15:25 食事開始 16:00 片付け、ふりかえりシート記入、全員で各テーブル毎の器具確認 16:30 来週の「ふれあい広場」行きについて説明 終了	5人	5人
18	平成28年10月23日 （日） 9:30～13:30	4	①iプラザ ②ワークピア磐田	19	①ふれあい広場へ行こう ②ふりかえり	①磐田市社会福祉協議会主催のイベントに参加し、一般の人にあいさつしたり、質問したりして交流する。また体験を通し、日本文化を理解するきっかけをつくる。 ②ふれあい広場に参加した感想、気づいたことを話し合う。ふれあい広場に参加できなかった講師，補助者に様子を伝える。	5人	5人
19	平成28年10月30日 （日） 14:00～16:00	2	ワークピア磐田	25	病気・病院	病気・病院の情報及び病気になった際の対応方法を話す。市内外の病院の情報や自らの健康法・予防法を交換し体調不良時に備える。	6人	7人
20	平成28年11月6日 （日） 14:00～16:00	2	ワークピア磐田	27	お昼ごはん	身近な食事の話題を通じて、日本や母国の料理を説明し、日常生活で自分のことを表現できるようにする。	7人	8人

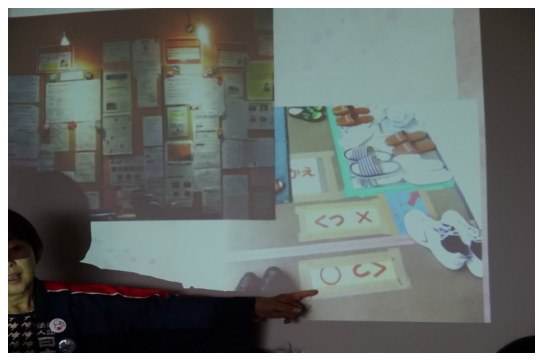
21	平成28年11月13日 （日） 14:00～16:00	2	ワークピア磐田	36	趣味	自分の自由な時間にする好きなこと、楽しいことを話し合い、みんなに伝える。	7人	4人
22	平成28年11月20日 （日） 14:00～16:00	2	ワークピア磐田	33	家族	家族の呼称を学び、人に紹介できるための語彙を覚える。家族にまつわるエピソードを話す。	5人	6人
23	平成28年11月27日 （日） 14:00～16:00	2	ワークピア磐田	15	私の出身地	名前や国名だけでなく自分の生まれた所の紹介を加えて自分のことをより多く知ってもらう。	6人	7人
24	平成28年12月4日 （日） 14:00～16:00	2	ワークピア磐田	15	仕事	自分の現在の仕事、以前していた仕事について話し合い、みんなに伝える。	6人	9人
25	平成28年12月11日 （日） 14:00～16:00	2	磐田中央図書館	26	図書館へ行こう	図書館への行き方、使い方を知る。	7人	8人
26	平成28年12月18日 （日） 14:00～16:00	2	ワークピア磐田	17	今年良かったこと	一年を振り返り、自身の出来事を、聞いたり話したりして互いを知る。また今年の教室イベントや活動についても意見を聞き、来年に繋げる。	6人	5人
27	平成29年1月8日 （日） 14:00～16:00	2	ワークピア磐田	8	2017年の抱負	今年の望み、目標、チャレンジしたいことについて話し合い、みんなに伝える。	6人	4人
28	平成29年1月15日 （日） 14:00～16:00	2	ワークピア磐田	22	お正月休みに何をしましたか？	お正月の体験を5W1Hで話す。それぞれのお正月文化を相互理解する。	6人	7人
29	平成29年1月22日 （日） 14:00～16:00	2	ワークピア磐田	28	寒い時の過ごし方	寒い時に必要なものの名前を覚え、その名詞の後に続く動詞も覚える。	7人	3人
30	平成29年2月5日 （日） 14:00～16:00	2	ワークピア磐田	9	仕事	仕事について話し合い、みんなに自分の経験を伝える。	6人	4人
31	平成29年2月12日 （日） 14:00～16:00	2	ワークピア磐田	25	イベント	母国・地域のイベントについて、聞いたり話したりする。	6人	10人
32	平成29年2月19日 （日） 14:00～16:00	2	ワークピア磐田	27	注文	店員の言葉を理解し、店頭で欲しいものを注文するための語彙を身に付ける。	6人	6人
33	平成29年2月26日 （日） 14:00～16:00	2	ワークピア磐田	39	①お花見 ②仕事（給与明細）	①現在暮らしている磐田市の花見ができるところ紹介し、行ってみたい所や行ったことがある所の話や自国の花見のことを話しそれぞれの文化を知るきっかけとする。 ②給与明細の項目から、税金、社会保険、労働保険について学ぶ。	8人	7人
34	平成29年3月5日 （日） 14:00～16:00	2	①ワークピア磐田 ②豊田町駅周辺	39	①食べ物 ②公共交通機関と買い物	①食べ物について自由に話し合い、グループで話したことをみんなに伝える。 ②バス、電車に乗って買い物へ行く。	8人	10人

35	平成29年3月19日 （日） 14:00～16:00	2	ワークピア磐田	34	①タブー ②ごみの出し方	①和食のマナー（箸使い）を紹介しながら、自国の食事マナーについて説明できる言葉を覚える。 ②磐田市ごみ対策課から講師を招き、ごみの出し方について学ぶ。	9人	15人

（1）特徴的な活動風景（2～3回分）

〇取組事例①

【西貝教室　第3回　平成28年5月29日】
「熊本地震からみる災害への備えと対策」
[ねらい]タイムリーな熊本地震の様子を聴講したり、防災グッズを紹介してもらうことにより、防災意識を高める。
[流れ]
1）磐田市女性防災クラブ代表　木村淑恵さん「災害への備えと対策」講演
2）防災グッズの説明
3）質問、感想、交流
[参加者]
　外国人27人　日本人11人
[参加者の様子・内容進行の反省点・ねらいが達成できたか・その他所感など]
　まず最初に、自分の地区の避難所を知っていますか。自分の血液型を知っていますか。この2つだけは覚えておいてください、と学習者にその必要性を説かれた。大きな声でゆっくりと情熱をこめて話されたので、学習者も日本人も感銘をうけたようだった。熊本地震の視察から帰られたばかりのプロジェクターで映し出された映像をみんなくいいるようにみていた。瓦葺の立派な家屋に被害が多かったようだ。避難所の視察では昼間は高齢者しかいなかった。仕切られていない段ボールのベットとカーテンで仕切ってあるところがあったが、お年寄りは仕切ってないほうが隣の人が見えて安心といっていた。仕切ってあるほうは隣がだれかわからなくて恐ろしいと言っている人がいたとのこと。プライバシーと安心感は両立しないようだ。テントが一番いいと思ったが梅雨に入るので今月でおしまいとのことだ。避難所に外国語は何も書いてなかった。通訳もいなかった。外国人も自分の備えは自分でやらなければならない。並べば食事や物資をもらえるわけではない、自分の避難所に名前を登録してあると家族分取っておいてくれるようだったから、外国の人たちも、しっかり避難所を覚え、災害時の準備をしておくよう促された。あらためて災害列島にすむ我々は備えと対策をしっかりしなくてはと思う。それからご自分の家で災害に備えて準備してあるトイレ、玄関の様子（手を洗ったり、トイレを流すためのペットボトルにいれた水などが置いてある）、暗くなったときのために玄関まで貼ってある蛍光テープなどが映像で紹介された。映像を見た後、たくさん持参してくださったいろいろなグッズ（お出かけポーチの中身、子供用、年寄用、など目的別ポーチ、備蓄用品、食用品、段ボールで作ったトイレ、家具の固定用品などなど）の説明があって使い方を質問したり、使い方を知っている学習者がポルトガル語で通訳をしてくれた。学習者も日本人もなごやかに講師に質問したり会話したりして交流することができ、有意義な時間を過ごせたと思う。12月に今年も防災訓練をしますから参加してくださいと呼びかけていただきありがたかった。



〇取組事例②

【ワークピア教室　第17回　28年10月16日】
「外国料理交流会」
[ねらい]外国人参加者が料理を教える立場になり、料理に必要な言葉を習得し、一般参加の日本人との交流を楽しんでもらう。
　　国の違い無く、全員が交流できる場を提供する。
[準備]①第5回　28年6月26日 「あなたの国のおすすめ料理」 人に薦めたい料理の洗い出し
　②第9回　28年7月24日（活動の後半に打合せ）「外国料理交流会の企画」『広報いわた』に掲載する内容の検討（日時、参加費、定員）
　③第10回　28年8月7日（活動の後半に打合せ）「外国料理交流会の企画」どこの国の料理にするか、各国の料理のリーダー決定、当日の活動時間の検討
　④第12回　28年9月4日 「あなたのおすすめ料理のレシピ」 レシピ作成
　⑤第19回　28年10月9日（活動の終わりの30分を使って打合せ）「当日の買い出し・段取り・役割分担」
[当日]
　12:15 ワークピアへ２名迎えに行く
　12:30 文化振興センター集合
　　荷物搬入 、打ち合わせ
　13:00 受け付け開始
　13:25 挨拶
　　リーダー紹介
　　自国の言葉で「こんにちは」を教えてもらい、全員で復唱。
　　メニュー紹介、一言。
　　注意事項を伝える（トイレの場所、使った物は元の場所に戻す、ゴミ袋への入れ方、今日のスケジュール）
　　グループ内で自己紹介
　　料理開始
　　≪料理名≫
　　インドネシア　：ナシゴレン
　　タイ　　：チキンレッドカレー
　　中国　　：焼き餃子（豚肉入り、卵入り）大学卵
　　ベトナム　　：揚げ春巻き（豚肉入り、鶏肉入り）
　15:25 食事開始

　16:00 片付け、ふりかえりシート記入、
　　全員で各テーブル毎の器具確認
　16:30 来週の「ふれあい広場」行きについて説明
　　終了
[参加者]
　外国人34人　日本人（一般参加者も含む）27人
[参加者の様子・内容進行の反省点・ねらいが達成できたか・その他所感など]
　楽しい雰囲気で、全員生き生きとした表情で料理を作っていた。イスラム教徒の人達の為に豚肉を使った料理だけではなく、豚肉を使わない物と2種類作ったグループ（豚肉を入れた方が美味しいと言いながらも）（ベトナム、中国）、鶏肉のみ使用したグループ（タイ）、他宗教に対する理解と気遣いが出来ていた。手が空いたグループの人も餃子の皮を包む作業を手伝ったり、春巻きを包む作業を手伝ったり、子供たちも参加して国の区別なく交流するという目的を果たせていた。食事時間は予定よりも短くなったものの、会話も弾み、どの料理も例年よりも更に美味しく出来上がり、皆さんお代わりもし、沢山食べていた。
準備段階で、人数も増え予定していた量よりも増やしてもらい、正解だった。各グループ毎にタレの付け方、レタスで春巻きを包むなど食べ方を教えたりよく出来ていた。片付けは人数が多い為、短時間で終了。最後の道具チェックは全員で行った。「これは何という名前か？」「何をする道具か？」（裏ごし器、蒸し器など）日本人に質問している声が聞こえた。初めて見る道具、器具も有ったのかも知れない。日本人が其々持参した布巾は量が足りなかった。チラシに持ち物として布巾と書いたが、外国人には伝わらなかった様だ。
[参加者の感想]
一度に4カ国の料理を食べられて海外にいる様な気分を味わえた。
どの料理も美味しくて、沢山作ってくれたので、お代わりも出来て良かった。
餃子の包み方、皮が剥がれないコツを分かりやすく教えてもらった。
国ごとにテーブルが分かれていたので、その国の性格が垣間見れた様で面白かった。
様々な国のお料理をおいしくいただきました。
子供達もとても楽しく参加できてよかったです。
また、機会があれば参加したいと思います。
みなさんと一緒にお料理が出来て楽しかった。
いろいろな国の料理を食べることができておもしろかった。作り方もよく分かりました。
いろいろな国の人と話が出来ました。
いいイベントだと思います。お腹いっぱいになりました。

（2） 目標の達成状況・成果

「教室アンケート」を44人に実施し、「このプログラムを受けて、日本語が前より上手になったと思いますか。」の問いに対し、「上手になったと思う。」28人、「まあまあ上手になったと思う。」13人で、合せて41人が上手になったと答えている。また、「このプログラムを受ける前よりも、日本での生活ができるようになったと思いますか。」の問いに対し、「できるようになったと思う。」33人、「少しできるようになったと思う。」11人で、全員に生活上の成果がみられたという結果だった。このことにより、「生活に必要な日本語の習得」及び「人間関係を築くための日本語コミュニケーション力の養成」の目標はほぼ達成できたといえる。

「地域社会への参画」と「異文化に対する理解を深め、多文化共生のまちづくりに貢献する」ことについては、4つの教室でそれぞれに地域とつながる行動体験活動を取り入れたことにより、地域の日本人と交流する場面が創り出され、ある程度の効果があったが、まだまだ、外国人、日本人双方の多文化共生に対する意識の向上、及び外国人の地域社会への参画も十分になされているとはいえない状況である。

（3） 今後の改善点について

①指導者・補助者が不足ぎみで、対話活動をする上で、外国人との人数のバランスがとれず、十分な対応ができないことがある。更なる人材養成が必要。
②日系フィリピン人の呼び寄せの子どもが学校に通っていないことが分かり、教育委員会に繋いだケースが複数回あった。今後、日本語教室がセーフティーネットとしての役割も担っていくためには、日本語支援者に多文化ソーシャルワーカーとしての研修が必要。
③日本語教室に数回しか参加しない日系ブラジル人、フィリピン人が多いので、生活に必要な情報と日本語を短期で学べるプログラムがあるとよい。
④外国人が日本語を使って生活したり、地域社会に参画するためには、日本人側にも文化の違いに対する寛容性と外国人とのコミュニケーション力が求められるので、日本人と外国人が交流できる活動を増やして、相互理解を促進していかなければならない。

＜取組2＞		
	取組の名称	地域つながりづくり日本語講座
	取組の目標	・防災に関する日本語の習得 ・外国人の「地域社会」と「防災」に対する意識の向上 ・外国人と自治会長の相互コミュニケーション力の向上 ・地域防災における多文化対応の充実
	取組の内容	1. 自治会長と話そう 自治会連合会豊田支部の「多文化共生に向けた自治会長情報交換会」と合同で年2回開催する。 第1回 テーマ 「多文化共生」 「自治会長と多文化共生について話そう」 講 師 NPO法人多文化共生マネージャー全国協議会副代表理事 高木和彦氏 内 容 講話、自治会長との意見交換 第2回 テーマ 「防災」 指導者 静岡県西部危機管理局、磐田市危機管理課 内 容 「やさしい日本語を使った避難所運営ゲーム」体験 2. 地域防災訓練への参加 12月に行われる地域防災訓練に参加する。 ①事前準備 対話活動で、事前の情報収集、防災用語の学習等を行う ②防災訓練へ参加 避難訓練に参加した経験がない外国人は、日本語支援者が引率し、富岡地区の避難所運営訓練に参加 避難訓練に自力で参加できる外国人は、居住する地区の防災訓練に参加 ③ふりかえり アンケート等を活用しながら、感想を話したり、避難所についての意見交換をする

取組２		
	□ 空白地域を含む場合、空白地域での活動	なし
	取組による体制整備	1. 自治会長と話そう 市豊田支所市民生活課、自治会連合会豊田支部と合同で開催する。 市民活動推進課、静岡県西部危機管理局、磐田市危機管理課の協力を得る。 2. 地域防災訓練への参加 自治会主催の地域防災訓練に外国人と共に参加する。多文化対応のための受け入れ態勢整備に協力する。
	取組による日本語能力の向上	・防災に関する日本語の習得 ・地域の日本人との交流による日本語コミュニケーション力の向上
	参加対象者	豊田教室、西貝教室、竜洋教室、ワークピア教室の学習者と日本人支援者 豊田支部自治会長と、災害通訳ボランティアなど災害時にキーパーソンとなる外国人、日本人支援者
	参加者数 （内 外国人数）	９３人 （４７人）
	広報及び募集方法	4つの日本語教室で募集チラシを配布
	開催時間数	総時間　7時間（空白地域　0時間）
	主な連携・協働先	NPO法人多文化共生マネージャー全国協議会、市豊田支所市民生活課、自治会連合会豊田支部 市民活動推進課、静岡県西部危機管理局、磐田市危機管理課 富岡地区自治会・自主防災会、市内の自治会・自主防災会
	開催場所	1. 自治会長と話そう 磐田市役所豊田支所大会議室　磐田市森岡150 2. 地域防災訓練への参加 磐田市立豊田北部小学校　磐田市加茂1026 その他市内の指定避難所

参加者の出身・国別内訳（人数）	中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル
	7	1	0	0	10	4	2	17
	スリランカ（2人），ペルー（2人），台湾（1人），パキスタン（1人），日本（46人）							

実施内容

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者人数
1	平成28年7月21日（木） 19:00～21:00	2	磐田市役所豊田支所	68	自治会長と話そう「多文化共生」	1.「自治会長と多文化共生について話そう」～外国人との相互コミュニケーション～　講話 2. 外国人市民との交流（グループワーク）	高木和彦（NPO法人多文化共生マネージャー全国協議会副代表理事）	14人
2	平成28年10月27日（木） 19:00～21:00	2	磐田市役所豊田支所	41	自治会長と話そう「避難所運営ゲーム（HUG）」	・避難所運営ゲームの説明 ・避難所運営ゲームの実施	本多（静岡県西部危機管理局）（謝金なし）	9人
3	平成28年12月4日（日） 9:00～12:00	3	豊田北部小学校運動場他	26	防災訓練への参加	【富岡地区避難所運営訓練】 9:30　集合整列，点呼，朝礼 災害時救援実体験講話 10:00　炊き出し訓練，放水訓練，水の濾過，仮設トイレ作り，発電機の操作，傷病者搬送，AED講習 12:00　訓練終了	島岡信生（富岡地区防災運営本部　本部長）（謝金なし）	9人

（1）特徴的な活動風景（2～3回分）

〇取組事例①

【第1回　平成28年7月21日】
自治会長と話そう「多文化共生」
[参加者]
外国人26人、自治会長42人、日本人補助者14人
[内容]
1.「自治会長と多文化共生について話そう」～外国人との相互コミュニケーション～　講話
　講師：NPO法人多文化共生マネージャー全国協議会副代表理事　高木和彦　氏
2. 外国人市民との交流（グループワーク）
12グループに分かれ、ワークシートにより意見交換。

（一社）磐田国際交流協会　多文化情報交換会
2016. 7.21 NPO 多文化共生マネージャー全国協議会

グループワーク（外国人市民との交流）

テーマ：お互いの文化を知り、壁をなくそう

1．外国のあいさつ知ろう！

日本（日本語）	国名：　（　　語）	国名：　（　　語）
おはよう		
こんにちは		
こんばんは		
おやすみなさい		
ありがとう		

2．お互いの文化を知ろう

質　問	日本	国名：	国名：
お金の単位は？			
車は、右側通行？ 左側通行？			
トイレの紙は、流す？ 流さない？			
1年で一番長い 休暇はいつ？			
死者の埋葬方法は？			

3．わたしの文化を話そう

質　問	あなたの答え		グループの人の答え	
			はい	いいえ
家の味噌汁は赤味噌である	はい	いいえ	人	人
納豆が好き	はい	いいえ	人	人
お風呂はお父さんが一番に入る（入っていた）	はい	いいえ	人	人
寝る時は、北枕だと落ち着かない	はい	いいえ	人	人
朝ごはんは、和食派？　洋食派？ 主に何を食べていますか？	和食	洋食		
目玉焼きには何をかけますか？				

[ふりかえりアンケート]（抜粋）
●講師の話で学んだこと、感じたことなどをご自由にお書きください。
・それぞれの文化を知っておもしろかった。
・東アジアでは、人口減少が進む事を知りました。外国人を地域でも受入れ、共に活動していく必要を改めて感じました。広報等もっと他言語で対応して頂けたら更に良いと思います。
・経済効果への波及はおどろきでした。
・日本人も外国人もお互いの文化を理解し仲よく暮らしましょう。
・多文化共生　いいことばかり話して、逆の面の話もしたらよいと思います。
・多文化共生の重要性を初めて認識しました。地域の外国人と、今後仲良くしたい。他外国の文化をよりよく理解し、交流を深めたいと思う。
・磐田市が外国人が多いことにびっくりしました。多文化交流センターが必要である事、あらためて思いました。磐田市への企業の誘致をもっと力を入れるべきだと思いました。
・災害の時、外国の人達の手助け等、非常に感心した。
・ちがいを大切にする社会をつくることの再認識。（日本に来たのだから合わせるべきものと思っていたことの反省）
・外国人が増えざるを得ない状況は、理解できたが、言葉の点で、第1歩がふみだせないことがネックとなる。交流の機会があれば変わってくると思う。
・外国人が磐田市内に3.6%も居住していることに驚いた。
・「多文化共生」の意味を初めて知った。そして必要性（経済的損失）を深く感じ、大切さを思い知らされた。又、外国人に対する偏見を今日から改める。
・磐田市内の外国人の多さ。減少することで、経済減少の考え方。
●グループワークで話した感想をお書きください。
・外国人だけではなく、日本人の間にもパーソナルな面での違いがいろいろ有るという事を改めて知り、外国人だからという見た目の違いだけで判断せず、普通に接する事が出来る社会になれば良いと思いました。
・グループ交流の時間ががもっとほしい。外国の人の話をもっと聞きたい。
・このような機会はなかったので、非常に有効でした。また、この様な機会があれば参加してみたい。
・国によってずいぶんちがう事が分かった。
・もう少し時間が欲しかった。今後とも外国の人達と仲良くしたいと思った。
・「違い」があると承知したうえで「同じ」をみつけたり、一緒に作りだしたりして、活性を生み出しました。
・各國の違いがわかりました。
・発音がわかりづらいが、外国人の方も一生けんめい日本になじもうとがんばっていることがわかった。
・国が異なれば、言葉が異なる、文化・生活が異なる、ことがよく分かった。その違いを互いに笑い合い、認め合うことで交流が深まったと思う。
・話題があって話しあったので、楽しく話しあえた。日本語が話せたので、会話がはずんだ。積極的に話しかけてくれてよかった。
・外国人と話をしたことがなく苦手である。
・他国の方との話し合いは有意義であった。
・各国々で異なる習慣、風習があることが分かった。
・楽しい時間でした。新しい異国の習慣を知ることができました。
・おもしろい設問だと思います。2ヶ国だけでなく、より多くの国の方とコミュニケーションが行いたかった。
・よその国の風習を知るのは面白い。

〇取組事例②

【第3回　平成28年12月4日】
防災訓練への参加
[参加者]
外国人26人、日本人補助者9人
[内容]
富岡地区避難所運営訓練
9:30　集合整列，点呼，朝礼
　　災害時救援実体験講話
10:00　グループに分かれて、炊き出し訓練，放水訓練，水の濾過，仮設トイレ作り，発電機の操作，傷病者搬送，AED講習を行う。
　　各グループに、自治会の役員が世話役としてつき、案内・説明をしてくださった。
12:00　訓練終了

富岡地区以外にも、地元の防災訓練に参加した外国人が7人いた。外国人が防災訓練に参加することを、行政を通して事前に自治会に伝え、対応してもらえた。

[アンケートより]
・今日は、津波や火事の時などいろいろな防災技術を学びました。
・にほんごがむずかしかったです。
・非常に重要。
・知ることができて良かった。お陰で、私たち家族は災害に備えることができます。
・もっと多くの外国人に参加してほしい。

（2） 目標の達成状況・成果

ふりかえりアンケートを書いてもらい、外国人・日本人双方に、多文化共生や多文化防災について気づきがあり、意識の向上につながった。グループワークや避難所運営ゲームを通して、自治会長が外国人と実際に話す体験をするのは、大変効果的と感じる。自治会長は1年任期の地区が多いので、毎年継続して実施することで、より多くの日本人に外国人及び地域の多文化共生に対する理解を広げ深めていきたい。

（3） 今後の改善点について

在日年数が長く、地域に馴染んで生活している家族でも、今回初めて防災訓練に参加したという方がいて驚いた。外国人を一部の防災訓練に引率するだけでなく、自分が住んでいる地元の防災訓練に参加できるよう、情報を提供したり地域の方とつなぐなど寄り添った支援が必要。外国人が参加することで、多文化防災の備えや考え方が市内全域に広がっていくことを目指したい。

＜取組3＞

取組3	取組の名称	保育園との連携による子育て日本語教室
	取組の目標	・子育てと生活に必要な日本語の習得 ・子育てに必要な知識・情報を得る ・主体的な学びと国籍を越えた子育てネットワークづくり
	取組の内容	外国人と日本人の子どもの保護者が、子育てという共通の目的を共有し、意見交換など交流しながら、実践を通して共に学ぶ。（全5回） 教室名「多文化グローバル子育て教室」 第1回 「子どもとの関わり方『こんなとき、どうする？』」 連携：こうのとり東保育園 子育て寸劇（子供との生活の一場面を演じることで、子どもとの関わり方や声掛け等に対する気づきを促す） 第2回 「親子のための防災講座」 講師：子どもの健康と環境を考える会 子どもを守りながら災害を乗り越えるための知識を学び、具体的に準備ができるようにする 原子力災害対策について地域的な状況を知り、原発事故が起きた時の対処方法を学ぶ 第3回 「自然の中の外遊び体験」 講師：みんなでうさぎ山を楽しむ会 親子で、自然豊かな 「うさぎ山公園」で遊び、「自然を愛し自然に学ぶ豊かな心」や「自然の中で、生きる力やあたたかい心」を育む 第4回 「多文化発見講座『〇〇人のここがなぞ？？？』」 参加者主体型講座（講座参加者が企画・進行する） 文化の違いを知り、楽しみながら、相互理解をはかる 第5回 「料理教室『にこにこクッキング』」 講師：こうのとり東保育園 食を通して交流しながら、日本食に馴染んでもらったり、栄養や調理方法について学ぶ ★各回の活動に、日本語と多言語による絵本の読み聞かせを取り入れ、絵本により心の豊かさが育つことを親に実感してもらう。外国人保護者の活躍の場とする。 ※保育園に通園していない子どもには託児をつける。 ※ポルトガル語の通訳をつける。
	空白地域を含む場合、空白地域での活動	なし
	取組による体制整備	子どもをまん中に、地域の様々な機関や団体が子育て・教育で繋がるネットワークづくり。 子どもをまん中にして、保育園と外国人・日本人保護者が相互に情報交換できたり、助け合える子育て仲間ネットワークづくり。
	取組による日本語能力の向上	・子育てと生活に必要な日本語の習得 ・日本人の子育て仲間との対話による日本語コミュニケーション力の向上
	参加対象者	0才から就学前の子どもを育てている外国人と日本人の保護者
	参加者数（内 外国人数）	42人（10人）
	広報及び募集方法	・「広報いわた」及びポルトガル語版「広報いわた」に募集記事を掲載 ・協会会報誌、ホームページ、Facebookに募集記事を掲載 ・こうのとり東保育園、南御厨幼稚園の保護者に募集チラシを配付 ・募集チラシを磐田市外国人情報窓口、市内子育て支援センターで配布
	開催時間数	総時間 8時間（空白地域 0時間）
	主な連携・協働先	社会福祉法人聖隷福祉事業団 こうのとり東保育園、子どもの健康と環境を考える会、みんなでうさぎ山を楽しむ会、磐田市多文化交流センター、カトリック磐田教会、磐田市幼稚園保育園課、NPO法人磐田まちづくりネットワーク
	開催場所	こうのとり東保育園 磐田市東新屋271-3 うさぎ山公園

参加者の出身・国別内訳（人数）	中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル
		2			1			6
	日本（32人），カザフスタン（1人）							

実施内容								
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者人数
1	平成28年6月25日 （土） ９:３０～１１:００	1.5	こうのとり東保育園	18	子どもとの関わり方「こんなとき、どうする？」	けんかもコミュニケーションのひとつで，子どもの心が成長するために必要な体験であることを認識し，子どもの心に寄り添う言葉がけ（言語化）をすることで，ことばと心が育つことに気づく。活動全体を通して子育てに関する言葉を習得する。 1）園長先生あいさつ 2）グループ内自己紹介 3）子どもとの関わり方「こんなとき，どうする？」 ①寸劇『子ども同士のトラブル』 ②グループ対話「話し合おう」 ・どう思いましたか？（ピンクの付箋） ・自分ならどう関わりますか？（水色の付箋） ③共有　グループの代表が発表 ④グループ対話「関わり方を演じてみよう」 ・場面を選ぶ・役割分担・脚本を考える・練習 ⑤寸劇発表 ⑥まとめ　勝又園長 4）多言語読み聞かせ 日本語「あかいぼうし」 ベトナム語「くつくつあるけ」チャンさん 5）ふりかえりシートの記入	こうのとり東保育園（勝又みさ子，福井元美，神谷たつみ，伊藤まさや，鈴木あや） 鈴木ゆみ	5人
2	平成28年8月6日 （土） ９:３０～１１:００	1.5	こうのとり東保育園	16	ぜったい役立つ！子どもを守る防災講座	子どもを守りながら災害を乗り越えるための心がまえ，原子力災害への対策，ケガの応急処置など，実践を交えながら学ぶ。 1）園長先生あいさつ 2）グループ内自己紹介 3）「ぜったい役立つ！子どもを守る防災講座 ①子どもを守りながら災害を乗り越えるための心がまえ ②ケガの応急手当 ③原子力災害に備える ④性犯罪にあわないために ⑤地域の防災訓練に親子で参加しよう！ ⑥まとめ　困った時は助けてもらう。自分にもできることを見つけて相互に助け合う。 4）ペア対話 5）多言語読み聞かせ 6）ふりかえりシートの記入	子どもの健康と環境を考える会（鈴木弥栄子，小林里佳，齋藤久美子） （磐田市危機管理課）神村義光 こうのとり東保育園（勝又みさ子，福井元美） 鈴木ゆみ	8人
3	平成28年10月29日 （土） ９:３０～１１:００	1.5	うさぎ山公園	23	秋の自然の中で遊ぼう！	自然の中でどう遊ぶかを学ぶ。五感を使って自然を体感する。子どもの興味に寄り添い、子どもが自然の中で生き生きと遊ぶ姿を見る。他の親を見て学ぶ。 1）あいさつ 2）石黒さんあいさつ （今日の活動、注意事項など） 3）「秋の自然の中で遊ぼう！」 ①準備体操（犬の目線、虫の目線、子どもの目線、大人の目線） ②芝生で虫を見つけよう ③山道を登る ④椎の実拾い、紅葉の実飛ばし ⑤草笛 ⑥葉っぱ集め ⑦集めた葉っぱ自慢発表 4）終わりのあいさつ、感謝のことば ハイタッチでさようなら	うさぎ山を楽しむ会（兼子孝宏，石黒，福井） 鈴木ゆみ	10人

4	平成28年11月19日 （土） ９:30～11:00	1.5	こうのとり東 保育園	8	多文化発見講座 「〇〇人のここがなぞ？？？」	日頃、不思議に感じている文化の違いについてお互いに話し、理解を深める。 1）園長先生あいさつ 2）グループ内自己紹介 3）多文化発見講座「〇〇人のここがなぞ？？？」 ①グループ対話 ②共有　グループ毎に前に出て発表 ③まとめ　勝又園長 4）ふりかえりシートの記入 5）多言語読み聞かせ ポルトガル語「Papagaio tubiba」ロゼさん ベトナム語　フォンさん	こうのとり東保育園（勝又みさ子，福井元美） 鈴木ゆみ	5人
5	平成29年2月18日 （土） ９:30～11:30	2	こうのとり東 保育園	16	料理教室 「にこにこクッキング」	1）園長先生あいさつ 2）グループ内自己紹介 3）講師紹介 4）調理方法，調理の工夫説明 おにぎり，梅おかか，チキンカレー焼き，すいとん，ほうれん草と納豆の和え物，ぜんざい 5）調理，配膳 6）お食事交流会 7）片付け 8）ふりかえりシートの記入 9）集合写真撮影	こうのとり東保育園（大杉みさお，勝又みさ子） 鈴木ゆみ	5人

（1）特徴的な活動風景（2～3回分）

〇取組事例①

【第2回　平成28年8月6日】
ぜったい役立つ！子どもを守る防災講座
[めあて]
子どもを守りながら災害を乗り越えるための心がまえ，原子力災害への対策，ケガの応急処置など，実践を交えながら学ぶ。
[参加者]
外国人5人、日本人11人
[内容]
1）園長先生あいさつ
2）グループ内自己紹介
3）「ぜったい役立つ！子どもを守る防災講座
①子どもを守りながら災害を乗り越えるための心がまえ
②ケガの応急手当
③原子力災害に備える
④性犯罪にあわないために
⑤地域の防災訓練に親子で参加しよう！
⑥まとめ　困った時は助けてもらう。自分にもできることを見つけて相互に助け合う。
4）ペア対話
5）多言語読み聞かせ
6）ふりかえりシートの記入
[ふりかえりより]
・子どもを守りながら、どのように災害を乗り越えるかを学びました。日本人と仲良くなってうれしいです。本当に役立ちます。
・災害の時、日本人でも分からない事、不安な事だらけなので、外国の方は、その何倍も大変だと思う。出会ったら、自分のできる事をしたいと思った。
・避難所では、初めて会う人ばかりだと思う。ペア対話は緊張しましたが、みんなで協力し、助け合える仲間づくりができるといいなと思いました。ブラジルの方の読み聞かせを初めて聞き良かったです。
・一度聞いただけでは分からないので、実際にやってみることが大切だと感じました。

〇取組事例②

【第3回　平成28年10月29日】
[めあて]
自然の中でどう遊ぶかを学ぶ。五感を使って自然を体感する。子どもの興味に寄り添い、子どもが自然の中で生き生きと遊ぶ姿を見る。他の親を見て学ぶ。
[参加者]
外国人5人、日本人18人
[内容]
1）あいさつ
2）石黒さんあいさつ
（今日の活動、注意事項など）
3）「秋の自然の中で遊ぼう！」
①準備体操（犬の目線、虫の目線、子どもの目線、大人の目線）
②芝生で虫を見つけよう
③山道を登る
④椎の実拾い、紅葉の実飛ばし
⑤草笛
⑥葉っぱ集め
⑦集めた葉っぱ自慢発表
4）終わりのあいさつ、感謝のことば
　ハイタッチでさようなら
[ふりかえりより]
・たくさん体験できて嬉しかった。こどもたちは先生のいう事をちゃんと聞いて偉いと思った。うちの子どもはまだ小さいので、あまり遊べないですが、こんどぜひまた行きたいと思う。
・ガイドの方がいらっしゃったので、自分では見つけられないことも見つけることができて楽しめました。

（2） 目標の達成状況・成果

・毎回、活動の終わりにふりかえりシートに学んだこと、感想、覚えた言葉を書いてもらった。
・各回の講師に、外国人向けにキーワードを強調してもらったり、グループワークで日本人と会話することにより、子育てに関する語彙を習得することができた。
・1年目からの継続参加者も数人おり、回を重ねる毎に、顔なじみもできて互いに親しみが増している。
・この教室の日本人と外国人の参加者数人が中心となって、地域の多文化共生への理解を促すために、多言語による絵本よみきかせを行うグループが形成されつつある。

（3） 今後の改善点について

・外国人参加者の人数、特にブラジル人を増やすよう、募集の方法に工夫が必要。カトリック教会や外国人対象の支援施設等へ協力をもとめる。
・園だよりに教室の様子を載せてもらうなどして興味関心を高め、こうのとり東保育園の保護者の参加を更に増やしたい。
・限られた回数なので、子育て・教育の切り口が様々にある中、参加者にとってより有意義な学びの場となるよう、プログラムの内容を精査していきたい。

＜取組4＞			
取組4	取組の名称		学び合い、人とつながる日本語活動を支える日本語ボランティア養成講座
	取組の目標		・地域日本語教育に携わる人材の拡充 ・多様なニーズに対応できる指導者の育成
	取組の内容		地域の多文化共生と日本語教育について、講話と実践を交えて学ぶ。 第1回　地域の多文化共生　　講師：静岡県立大学　国際関係学部准教授　高畑幸　氏 第2回　地域日本語教室と日本語ボランティアの役割　　講師：東海日本語ネットワーク　副代表　米勢治子　氏 第3回　対話を中心とした日本語活動 第4回　対話を通した読み書き活動 第5回　対話活動の実践① 第6回　対話活動の実践② 第7回　行動・体験を中心とした教室活動 第8回　磐田の子ども支援事情　協力：多文化交流センター、磐田市福祉課、磐田市教育委員会、他 第9回　子どもを対象とした対話活動 第10回　振り返り・まとめ
	□	空白地域を含む場合、空白地域での活動	なし
	取組による体制整備		日本語指導者・補助者の研修及び日本語ボランティアの養成を行い、日本語教育に携わる人材の拡充を図ることで地域日本語教育体制を強化する。
	取組による日本語能力の向上		「対話活動の実践」を実際の教室で実施することで、外国人参加者の日本語力の向上をねらう。

参加対象者	日本語教室指導者・補助者 日本語ボランティア活動に関心のある人 日本語教室の外国人参加者	参加者数 （内 外国人数）	38人 （8人）
広報及び募集方法	・「広報いわた」に募集記事を掲載 ・協会会報誌、ホームページ、Facebookに募集記事を掲載 ・日本語教室指導者・補助者及び当協会会員へ募集チラシを配付		
開催時間数	総時間　30時間（空白地域0時間）		
主な連携・協働先	静岡県立大学　国際関係学部准教授　高畑幸　氏 東海日本語ネットワーク 多文化交流センター、磐田市福祉課、磐田市教育委員会		
開催場所	磐田市役所豊田支所大会議室　磐田市森岡150		

参加者の出身・国別内訳（人数）	中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル
		2						
	日本（30人），台湾（2人），スリランカ（2人），ペルー（2人）							

実施内容

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者人数
1	平成28年9月10日（土） 13:30～16:30	3	磐田市役所豊田支所	12	地域社会の多文化共生	1．日本における外国人の集住 2．日本の地域社会 3．外国人の受け入れ政策 4．静岡県多文化意識調査 5．外国人が増えた地域社会（事例紹介） 6．グループディスカッション 7．ふりかえりシートの記入	高畑幸	1人
2	平成28年9月17日（土） 13:30～16:30	3	磐田市役所豊田支所	11	地域日本語教室の在り方と日本語ボランティアの役割	1.「地域日本語教室の在り方」を考える 2．日本語ボランティアの役割を考える 3．日本語ボランティアの基礎力 4.「ネタを見つける！」ために…地域日本語教室で行う活動内容 5．ふりかえり	米勢治子	1人
3	平成28年10月8日（土） 13:30～16:30	3	磐田市役所豊田支所	13	対話を中心とした日本語活動	1．前回までのふりかえり 2．対話活動の体験 3．対話活動の流れ 5．グループワーク（対話活動を体験して感じたこと，気づいたこと，活動の目的） 6．共有 7．ふりかえりシートの記入	川添裕子	なし
4	平成28年10月22日（土） 13:30～16:30	3	磐田市役所豊田支所	10	対話を通した読み書き活動	1．読み書き活動を取り入れるわけ 2．先進事例紹介 3．読み書き活動を体験してみよう 4．実践のやり方の説明 5．教室見学についてのお知らせ 6．ふりかえり	川添裕子	なし
5	平成28年11月5日（土） 13:30～16:30	3	磐田市役所豊田支所	12	実践①	1．グループごとに模擬授業の計画・準備 2．自己紹介 3．模擬授業　Aグループ「食べもの」 ふりかえり 4．ふりかえりシートの記入	川添裕子	3人

6	平成28年11月26日 （土） 13:30～16:30	3	磐田市役所 豊田支所	12	実践②	1．参加者自己紹介 2．模擬授業　Bグループ「わたしの趣味」対話活動 　ふりかえり 3．模擬授業　Cグループ「やってみたいスポーツは何ですか？」読み書き活動 　ふりかえり	川添裕子	5人
7	平成28年12月17日 （土） 13:30～16:30	3	磐田市役所 豊田支所	9	行動・体験を中心とした日本語活動	1．行動・体験中心の日本語活動とは？ 2．活動事例紹介 3．行動・体験中心の活動の流れ 4．活動を考えてみよう（グループワーク） 5．共有 6．ふりかえり	川添裕子	なし
8	平成29年1月21日 （土） 13:30～16:30	3	磐田市役所 豊田支所	24	磐田の外国人子ども支援事情	1．取組発表 ①磐田市教育委員会の外国人児童生徒支援の紹介（磐田市教育委員会指導主事　袴田美穂） ②磐田市多文化交流センター「こんにちは！」の活動紹介（磐田市多文化交流センター副センター長　山田祐美） ③磐田市福祉課の学習支援教室の活動紹介（磐田市福祉課主任社会福祉士　寺井勝己） ④日本語教室子どもクラスの活動紹介（豊田教室、西貝教室）（（一社）磐田国際交流協会日本語講師　宇野薫、森西尊子） ⑤こどもサポート教室『きらり』の活動紹介（児童発達支援・放課後等デイサービス）（株式会社クラ・ゼミ　静岡県西部地区エリアマネージャー　青島佐希子） ⑥外国につながる子どもの心理・発達支援（国立国際医療研究センター小児科・四谷ゆいクリニック　臨床心理士　津田友理香） 2．質疑応答・意見交換	袴田美穂 他6人	1人
9	平成29年2月11日 （土） 13:30～16:30	3	磐田市役所 豊田支所	10	子どもを対象とした対話活動	1．子どもを対象とした対話活動のねらい 2．子どもを対象とした対話活動のテーマ 3．事例紹介 4．対話を中心とした日本語活動の復習 5．活動案作成・発表	川添裕子	なし
10	平成29年2月25日 （土） 13:30～16:30	3	磐田市役所 豊田支所	7	振り返り・まとめ	1．磐田の日本語ボランティアの活動の場 2．自分の中の日本語ボランティアの位置づけ ①マインドマップの作成 ②ビジョンマップの作成 ③発表 3．日本語ボランティア登録 4．懇親会	鈴木ゆみ	1人

（1）特徴的な活動風景（2～3回分）

〇取組事例①

【第1回　平成28年9月10日】
地域社会の多文化共生　　講師：静岡県立大学　国際関係学部准教授　高畑幸　氏
[内容]
1．日本における外国人の集住
　在日外国人の国籍ベスト4、ブラジル人の居住地分布の特徴、静岡県内の居住地分布の特徴、外国人集住都市会議
2．日本の地域社会
　日本の地域社会の最小単位、コミュニティ活動の類型、地域社会と多文化共生が接合するところ
3．外国人の受け入れ政策
　政策課題としての共生社会
4．静岡県多文化意識調査
　私たちの意識
5．外国人が増えた地域社会（事例紹介）
　課題と解決に向けての取組み
6．グループディスカッション
　地域社会の多文化共生に必要な人材、あなたなら何ができるか
7．ふりかえりシートの記入
[ふりかえりアンケートより]
・日本に外国人が暮らし始めた背景や、静岡県の現状について学習することができ、とても勉強になりました。グループワークもメンバーの皆さんの熱い想いを聴くことができ、刺激を受けました！自分のこれからの働き方なども踏まえた上で、今後もスキルアップしていきたいと思います。
・身近な外国人に対する見方もこれまでより多角的になると思います。「文化的媒介者」の育成が大切だと思いました。
・町内会、自治会単位での活動や理解が、とても重要だと感じました。外国人の受け入れ政策の流れのお話がとても勉強になりました。京都や大阪など、観光地は以前より海外の方がとても増えたなぁと感じていましたが、まだまだ理解が浅いところも多いのだなと思いました。
・遅れてすみませんでした。日本語に対してのボランティアだけを考えていましたが、生活上でのサポートも必要だと感じました。自治会活動を通してもボランティアとして活動できたら良いなと思います。日本語の読み書きの指導もしてみたいです。
・日本生まれの外国人住民の力をもっと活用して、多文化共生がすすんでいけばいいなと思いました。共生できる活動をふやして、お互いを理解していきたいです。
・「地域で必要とされる人材」について考えてみて、一部の事を除いては“誰でもができること”なのだと気付きました。外国人が私たちに何を求めているかの視点についても、知りたいと思いました。今日は自分に何ができるかを考える良い機会になりました。

〇取組事例②

【第8回　平成29年1月21日】
磐田の子ども支援事情
[内容]
1．取組発表
①磐田市教育委員会の外国人児童生徒支援の紹介（磐田市教育委員会　指導主事　袴田美穂）
②磐田市多文化交流センター「こんにちは！」の活動紹介（磐田市多文化交流センター副センター長　山田祐美）
③磐田市福祉課の学習支援教室の活動紹介（磐田市福祉課主任社会福祉士　寺井勝己）
④日本語教室子どもクラスの活動紹介（豊田教室、西貝教室）（（一社）磐田国際交流協会日本語講師　宇野薫、森西尊子）
⑤こどもサポート教室『きらり』の活動紹介（児童発達支援・放課後等デイサービス）（株式会社クラ・ゼミ　静岡県西部地区エリアマネージャー　青島佐希子）
⑥外国につながる子どもの心理・発達支援（国立国際医療研究センター小児科・四谷ゆいクリニック　臨床心理士　津田友理香）
2．質疑応答・意見交換
[ふりかえりアンケートより]
・日本語教育に止まらず、生活支援、人生設計支援にまで及ぶ、深い多文化共生の世界が見え、大変教えられました。
・外国人子ども支援事情ということで、公共、民間や医療、福祉など、様々な視点からのお話をきくことができて、とても興味深かったです。
・どこの教室、支援機関も、日本語の学習サポートをするだけでなく、外国人の方の心の安定を第一に考え、外国人の方の心の支えになる場を提供しているのだとよく分かりました。磐田市に住む外国人の方が少しでも過ごしやすい街になるように、自分にできる事は何かを考え、サポートしたいと思いました。
・磐田の中で外国人児童・生徒の支援のための様々な取り組みがあることが判りましたが、それぞれが連携していく仕組みが作れたら、もっと良くなると感じました。また、その活動を周知するために発信していらっしゃると思いますが、外国人学習者に協力してもらってコミュニティの中で伝える、外国人労働者の多い企業で案内してもらう、などはいかがでしょうか。福祉に関することは、自発的に動かないと情報が入らない、というのはもっともだと思いました。

（2） 目標の達成状況・成果

・多角的な視点から多文化共生への知識と理解を深め、地域日本語教室の目的を明確に意識して、日本語教育活動の手法を学ぶ事ができた。
・養成講座修了後、継続的に日本語教室の活動に参加している人が3人、不定期に参加する人が3人。継続して参加している人は、対話活動の進行役を担当したり、学習者に応じた臨機応変な対応ができ、頼もしい即戦力となっている。

（3） 今後の改善点について

・全10回の講座は、受講者にとって負担もあったようだ。子ども支援は、切り離して別講座とし、シンプルな構成にした方がよい。

＜取組5＞				
取組5	取組の名称	「いわたインタ-ナショナルフォーラム」における日本語教室の活動紹介と成果発表		
	取組の目標	日本語教室の活動を一般市民に広く周知し、日本語教育に対する理解を促進する。 日本語教室の活動の成果を発表することにより、外国人参加者のエンパワーメントを実現する。		
	取組の内容	「いわたインターナショナルフォーラム」の中で、日本語教室の活動紹介と成果発表を行う。 ①ステージでの外国人による日本語スピーチ ②教室紹介ブースの出展と世界の文化体験コーナー ③多文化グローバル子育て教室成果発表　体験コーナー「多言語読み聞かせ」 日本語教室の活動紹介と成果発表を行うにあたっては、企画準備会（1回1時間×1回）を行った。		
	□ 空白地域を含む場合、空白地域での活動	なし		
	取組による体制整備	「いわたインタ-ナショナルフォーラム」の実行委員には、当協会の他、一般社団法人磐田青年会議所、磐田市自治会連合会、NPO法人磐田まちづくりネットワーク、磐田ユネスコ協会、エスコーラ・オブジェチーボ・チアホーザ、カトリック磐田教会、共生のなかま「樹の会」、国際ソロプチミスト磐田、磐田市市民活動推進課、磐田信用金庫、株式会社アイ・ビー・フォックスフーズ、磐田市多文化共生社会推進協議会、磐田未来クラブが委員として参画している。 これらの組織・団体と協力・連携を図り、広く一般市民へ日本語教室の活動を周知し、地域日本語教育体制を強化する。		
	取組による日本語能力の向上	日本語スピーチによる日本語力の向上 対話活動で準備をすることによる日本語力の向上 フォーラム当日、会場で一般市民と交流することによる、日本語コミュニケーションの実践		
	参加対象者	日本語教室参加者、一般市民	参加者数 （内 外国人数）	900人 （205人）
	広報及び募集方法	・「広報いわた」に募集記事掲載 ・ポルトガル語版磐田市広報誌に募集記事を掲載 ・当協会会報誌、ホームページ及びフェイスブックに募集記事を掲載 ・チラシの全戸回覧 ・交流センター等公共施設へのポスター掲示とチラシの配架 ・在浜松ブラジル総領事館サイトでの告知記事掲載		
	開催時間数	総時間　6．5時間（空白地域0時間）		
	主な連携・協働先	一般社団法人磐田青年会議所、磐田市自治会連合会、NPO法人磐田まちづくりネットワーク、磐田ユネスコ協会、エスコーラ・オブジェチーボ・チアホーザ、カトリック磐田教会、共生のなかま「樹の会」、国際ソロプチミスト磐田、磐田市市民活動推進課、磐田信用金庫、株式会社アイ・ビー・フォックスフーズ、磐田市多文化共生社会推進協議会、磐田未来クラブが委員として参画している。		
	開催場所	ワークピア磐田　磐田市見付2989-3		

	中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル
参加者の出身・国別内訳（人数）	22	18			23	28	15	90
	オーストラリア（2人），アメリカ（3人），カナダ（1人），バングラディシュ（3人），日本（695人）							

実施内容

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名
1	平成29年1月29日（日） 9:30～16:00	6.5	ワークピア磐田	19	日本語教室の活動紹介と成果発表	①ステージでの外国人による日本語スピーチ ②教室紹介ブースの出展 ③子ども絵画展作品展示「スイミー」 ④多文化グローバル子育て教室成果発表　体験コーナー「多言語絵本読み聞かせ」	宇野薫 大場睦子 前嶋義夫 （10月31日企画準備会1h出席）	なし

（1）特徴的な活動風景（2～3回分）

〇取組事例①

【第1回　平成29年1月29日】
①ステージでの外国人による日本語スピーチ
　4人（出身国別：タイ1，ブラジル2，中国1）
②教室紹介ブースの出展
　日本語教室の写真をパネルに貼り展示
③子ども絵画展作品展示「スイミー」
　豊田教室の子どもたちによる、紙芝居の絵と台詞を展示
④多文化グローバル子育て教室成果発表　体験コーナー「多言語絵本読み聞かせ」
　菅原明子（日本）司会・進行
　・絵本タイトルと読み手（6人）の出身国
　『なにをたべてきたの？（日本）』
　『おばけのてんぷら（日本）』
　『十二生肖的故事（干支の昔話）（中国）』
　『スアン ベ スアン ベ(春だ　春だよ)（ベトナム）』
　『グンギンペンホワット（グンギンちゃんはかぜをひく）（タイ）』
　『Dorme, menino dorme.（眠れ坊や眠れ）（ブラジル）』

（2）　目標の達成状況・成果

・インターナショナルフォーラムには900人もの来場者があり、日本語教育事業についても多くの方に知ってもらうことができた。
・今年は外国人の来場者が例年以上に多く、日本語教室に申し込んでいく方もいた。
・日本語スピーチで、自分の経験や考えをまとめ、大勢の観衆の前で堂々と話したり、多言語絵本読み聞かせにチャレンジしたりして、自信をつけた。

（3）　今後の改善点について

・様々なイベントが同時進行している中、「多言語絵本読み聞かせ」は奥まったところにある和室で行ったため、集客に苦労した。次回は、人が集まりやすい場所で実施したい。

4.　事業に対する評価について

（1） 事業の目的・目標

行政、地域交流センター、社会福祉協議会、自治会、保育園、市民団体、日本人住民等と連携・協力を図り、対話活動や行動・体験活動を通して、「生活者としての外国人」の多様なニーズに応える日本語学習の場を提供するとともに、「地域社会全体が日本語を学ぶ場」と考え、日本人住民の外国人及び日本語教育に対する理解を促進し、外国人と日本人の相互のコミュニケーション力を向上することにより、地域社会全体で日本語教育の環境を整えていく。

（2） 目的・目標の達成状況・事業の成果

・地域つながりづくり日本語講座や子育て日本語教室、及び4つの日本語教室では、行動・体験中心の活動を通して、行政，地域交流センター、社会福祉協議会、自治会、保育園、市民団体、日本人住民等と幅広い連携をとりながら、外国人が生活で必要としている日本語を、様々な切り口から学ぶ機会を提供することができた。
・全ての取組を通して、多くの機関・団体と連携を取り、また地域住民との交流を図ったことで、磐田で暮らす外国人と日本語教室に対する理解者が増えた。
・日本語ボランティア養成講座の実施により、日本語教室のボランティアが6～7人増え、更に即戦力とし、対話活動の進行役の担い手も2～3人程度増員できた。養成講座で事例を話してもらった発表者が日本語教室に関心を持ち、その後日本語ボランティアとして活動している。

（3） 地域の関係者との連携による効果，成果　等

・昨年、防災訓練に参加したことがきっかけとなり「加茂の夏まつり」に出店。外国人親子が、通っている小学校の校長先生と話したり、自治会の方と顔つなぎができ、地域での顔の見える関係性づくりに繋がった。地元住民にとっても、外国文化に触れる機会となり、地域多文化共生の一助となった。
・社会福祉協議会主催「豊田ふれあい広場」に参加。外国の料理を出店し、学習者の国の挨拶をゲーム形式で紹介し、地域住民と交流。自分たちの地域にどんな外国人が暮らしているかを楽しみながら学んでもらえた。
・竜洋の地域づくりの一環として初めて開催された「竜洋交流センター夏祭り」では、来場者だけでなく、参加団体である中学生ボランティアや、消防団、地元の市民活動団体と交流ができた。今後、日本語教室が竜洋の地域づくりの一員として参画する第一歩となった。
・取組2の自治会と連携した地域つながりづくり日本語講座と、取組3の保育園と連携した子育て日本語教室では、学習者が自国のことばや文化を日本人参加者に紹介し、対等な立場で文化の多様性を認識することができた。ふりかえりアンケートからは、外国人に対する認識が変化したり、地域の多文化共生への気づき等が窺えた。

（4） 事業実施に当たっての周知・広報と，事業成果の地域への発信等について

・磐田市外国人情報窓口で転入外国人に対し、日本語教室の情報を常時周知している。窓口の通訳を介して日本語教室参加の申込みを受け、協会へ連絡してもらうことで、磐田に来たばかりの外国人にとって、日本語教室に参加しやすい環境となっている。他にも市の広報誌「広報いわた」及び広報のポルトガル語版を活用したり、協会のホームページに日本語教室の情報を多言語で掲載したりした。
・事業成果については、取組実施の都度、フェイスブックやホームページに様子を掲載し発信した。年3回発行している協会の会報誌にも写真を多用して事業報告を掲載し、自治会に回覧している。
・1月末に開催した「いわたインターナショナルフォーラム2017」において、日本語スピーチや多言語絵本読み聞かせ、子ども絵画展等、年間を通して取り組んできた成果を、様々な形で表現することができ、900人もの来場者に対して日本語教室をアピールすることができた。

（6） 改善点，今後の課題について

・ブラジル人の入国・転入が多く、家族で日本語教室に訪れる。再入国者はある程度日本語ができるが、全く話せない人も多い。同時に、日本滞在年数が長いブラジル人も学び直しで多く訪れる。これらの学習者が少しでも長く教室に通えるよう、実用的で魅力ある内容がもとめられる。
・日本語支援者が常に足りない状況が続いているので、更なる人材養成が必要。
・日系フィリピン人の呼び寄せの子どもが学校に通っていないことが分かり、教育委員会に繋いだケースが複数回あった。今後、日本語教室がセーフティーネットとしての役割も担っていくためには、日本語支援者に多文化ソーシャルワーカーとしての研修が必要。
・外国人が日本語を使って生活したり、地域社会に参画するためには、日本人側にも文化の違いに対する寛容性と外国人とのコミュニケーション力が求められるので、日本人と外国人が交流できる活動を増やして、相互理解を促進していかなければならない。

（7） その他参考資料

●チラシ

・いわたICE（磐田国際交流協会）地域日本語教室（日本語・ポルトガル語）
・豊田大人と子どもの日本語教室（豊田教室）
・たのしい日本語(西貝教室）
・ゆかたを自分できませんか(西貝教室浴衣会（日本語・ポルトガル語・英語）
・日本語教室in竜洋(竜洋教室）
・にほんごきょうしつ（ワークピア教室）
・国際スポーツパーティー（ワークピア教室　スポーツ交流会）
・第１回多文化共生に向けた情報交換会「自治会長さんとはなそう」(日本語・やさしい日本語・ポルトガル語）
・自治会長さんと防災について話そう～やさしい日本語を使ったHUG体験～
・地域防災訓練に参加しよう！（日本語・ポルトガル語）
・多文化グローバル子育て教室2016(日本語・ポルトガル語・英語）
・多言語絵本よみかせ
・日本語ボランティア養成講座2016
・いわたインターナショナルフォーラム2017（日本語・ポルトガル語）
・いわたインターナショナルフォーラム2017当日チラシ
・多言語絵本よみきかせ(日本語・ポルトガル語）

●アンケート等

・自治会長と話そう第1回振り返りアンケート回答
・防災訓練アンケート集計
・多文化グローバル子育て教室ふりかえり
・日本語ボランティア養成講座ふりかえり

●学習ポートフォリオ

・Can-do statements結果

●新聞記事等

・避難所運営ゲーム（静岡新聞）
・防災訓練（静岡新聞・中日新聞・広報いわた）
・いわたインターナショナルフォーラム2017（静岡新聞・中日新聞）